



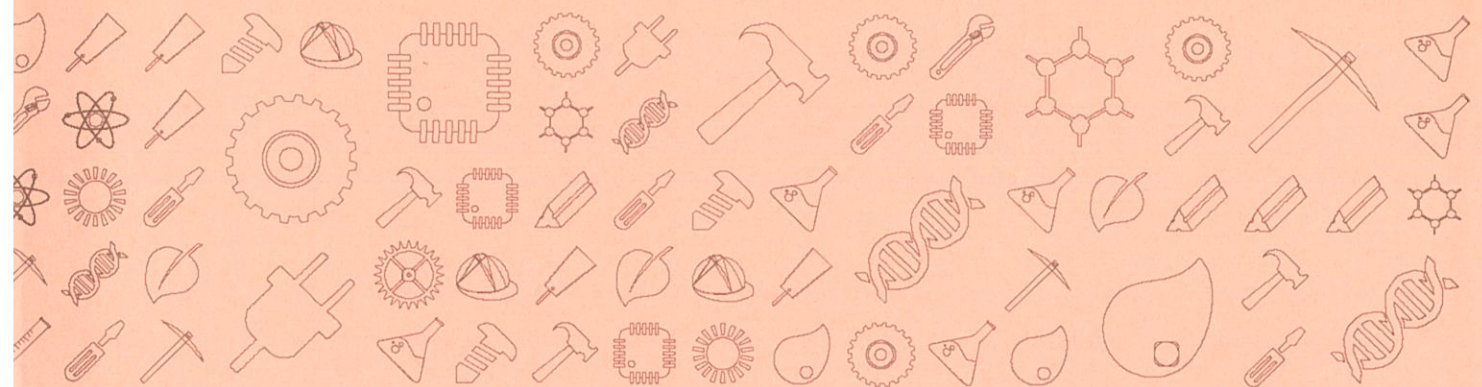
修士課程 学生便覧

平成28年度入学生用
(16W・16BS 修士課程)

【WEB掲載用：抜粋版】 ver2016.4

新入生の皆さんは、入学当初に配布された冊子をよく読み、全内容を確認してください。

なお、変更事項等は、キャンパス内掲示版で周知します。



Be a new engineering pioneer

信州大学大学院総合理工学研究科 修士課程
工学専攻・生命医工学専攻 長野(工学)キャンパス

この学生便覧はあなたが修了するまで適用されます。

修了するまで紛失することのないよう保管すること。

目次



目次	1
信州大学・総合理工学研究科の理念と目標	2
「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」	3
学修心得	7
在籍・修了について	8
カリキュラムの履修について	9
履修計画の立て方	10
休退学について	11
学生生活について	12
履修プロセス概念図・科目一覧	13
研究科共通科目・専攻共通科目一覧	14
工学専攻 物質化学分野	16
電子情報システム工学分野	20
水環境・土木工学分野	25
機械システム工学分野	28
建築学分野	31
生命医工学専攻 生命工学分野	34
サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム	36
教職課程認定について	38
規則集 1（申合せ・取扱要項）	39
学生の懲戒	40
進級に関する申合せ	42
学外研修の取扱い	43
他の大学院等における研究指導に関する取扱要項	44
在学期間1年以上2年未満で修了する者の取り扱いに関する申合せ	47
長期履修制度の取扱要項	48
学位論文審査及び最終試験並びに修了判定実施要項	51
修士論文評価基準	53
規則集 2（学則・規程）	55
信州大学大学院学則	56
信州大学学位規程	70
信州大学大学院総合理工学研究科規程	73
信州大学学生生活に関する通則	90
信州大学における掲示に関する規程	90
信州大学授業料等に関する規程（抄）	91
信州大学授業料等の免除及び徴収猶予の取扱いに関する規程（抄）	94
信州大学附属図書館利用規程	96
信州大学工学部寄宿舎若里寮規程	98
信州大学工学部講義室使用内規	99
信州大学工学部講義室使用要領	99
信州大学工学部体育施設内規	100
信州大学工学部体育施設使用要領	100
信州大学工学部課外活動共用施設内規	101
信州大学工学部課外活動共用施設使用要領	101
キャンパスマップ	102
Address & 問合せ先	巻末

信州大学・総合理工学研究科の理念と目標



信州大学の理念

信州大学は、

信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

信州大学は、

その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。

信州大学は、

世界の多様な文化・思想の交わる場所であり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。

信州大学は、

自立した個性を大切にします。

信州大学で学び、研究する我々は、

その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。

信州大学の目標

信州大学は、

その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

(教育)

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

(研究)

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

(地域貢献)

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

(国際交流)

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。



総合理工学研究科の理念と目標

総合理工学研究科は、信州の豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた大学院として、それぞれの専門分野において社会に資する有為な人材を育成するための教育・研究を推進します。幅広い学問分野を含む利点を生かして、学際領域を開拓する進取の気性に富んだ人材を育成し、広い視野と高い課題解決能力をもつ高度専門職業人を養成することを教育・研究の理念とします。

本研究科は、高度な専門知識・技術および周辺分野の課題にも対応した応用力・俯瞰力と批判的思考力をもつ高度専門職業人、創造性豊かな研究者、および環境調和社会を支える知的素養と倫理観を備えた人材を養成することを教育・研究目標とします。



学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

1. 修士課程にあつては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
2. 博士課程にあつては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
3. 専門職学位課程にあつては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

総合理工学研究科

総合理工学研究科では、以下の知識と能力等を十分培い、かつ、専攻ごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 人類、社会の平和的・持続的発展のために、研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 深い専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

信州大学大学院

大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

総合理工学研究科

総合理工学研究科は、高度専門職業人、研究者等に必要とされる高度な専門知識、手法、技能、実践力を身につけることを目標として、学位論文の作成を中心に、講義、演習、実験、実習等からなる専門性の高いカリキュラムを策定しています。カリキュラムの実施にあたってはコースワークから学位論文作成へ有機的につながる体系的な教育を行います。加えて、本研究科が幅広い学問分野により構成されているという利点を生かして、分野・専攻を超えた学際的な共通科目を設定することで、高い専門性と総合性のバランスを確保し、深い専門性と近傍分野における課題解決についての応用力や理工学系領域全体に対応する俯瞰力も養成します。

工学専攻



工学専攻の教育・研究の理念と目標

工学専攻は、恵まれた自然環境の中で個性を生かし、豊かな一般教養及び工学基礎力の素養のもとに、工学の幅広い専門的知識及び、社会に貢献できる創造性を養う教育を行い、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に貢献します。また、科学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を育成します。

工学専攻は、基礎学力の向上を重視しつつ専門知識並びに学際分野の修得を基盤にし、創造力の育成と課題探求能力を開発する教育を行うとともに、地球環境保全などに対する技術者倫理をそなえ国際的視野に立ってさまざまな分野で貢献できる行動力や自立心を有する人材を育成します。



工学専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

工学専攻では、研究科および工学専攻の目的に則り、以下の知識と能力等を十分培い、かつ、分野・ユニットごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



工学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

工学専攻は、専攻の下に、工学部の学科と同一名称の分野（物質化学分野、電子情報システム工学分野、水環境・土木工学分野、機械システム工学分野、建築学分野）をおき、産業界・地域のニーズに応じた製品等を自ら考案し、研究・開発していく能力を有する高度技術者及び研究者を育成するための教育を行います。

工学専攻では、高度専門職業人、研究者等に必要とされる科学や技術に関連する基礎的素養を涵養するための共通科目と各分野の特色および特徴を活かした講義、演習、実験科目からなる専門科目に基づき高度な専門知識や実践的技術を身につけます。専門講義科目では、学部の専門教育をふまえた各専攻の高度な専門知識の習得を目指し、演習・実験科目においては、実践的研究能力の修得に加え、研究発表能力、プレゼンテーション能力、研究のマネジメント能力、国際性等の修得、養成を目指します。これらの科目の最終段階として2年間の成果をまとめる学位論文作成又は特定課題研究を行い、最終試験により評価します。

生命医工学専攻



生命医工学専攻の教育・研究の理念と目標

生命医工学専攻は、医学・工学・繊維学・農学・理学連携により、学部の垣根を越えた実践型研究教育を実施し、異分野の研究者と大学院生が同じテーマで共に学ぶシステム（異分野融合教育・人と場所の流動型教育）を構築し、下記の社会に資する人材を育成します。

- ・ 稀有の実体験により、産学官連携研究を推進する特殊知識・技能をもつオンリーワン人材
- ・ 製品開発能力をもつ大学研究者・医学的知識をもつ企業研究者などの人材
- ・ 知的財産などを含めた産学官連携イノベーションマネジメントの専門人材
- ・ レギュラトリーサイエンスの専門人材
- ・ 国際舞台で活躍する研究者



生命医工学専攻の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

生命医工学専攻では、研究科および繊維学専攻の目的に則り、以下の知識と能力等を充分培い、かつ、分野ごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与します。

1. 健康・福祉・医療・創薬分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える健康・福祉・医療・創薬分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力



生命医工学専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生命医工学専攻は、医学・工学・繊維学・農学・理学の学士課程で身につけた基礎的な科学技術の素養に基づき、健康・医療・福祉領域で活躍する高度専門職業人、研究開発者等に必要とされる高度な知識や研究手法を身につけることを目標としています。これを達成するため、学士課程において理工学分野を学んだ学生には医学・生物学の基礎科目を、保健・生物・農学分野を学んだ学生については理工学系基礎科目を習得させるとともに、各専門分野の教育を行います。また、実践的教育を充実させるために、学内外の施設を利用した医療インターンシップを実施します。学位論文の作成を中心に、セミナー、講義、実験・実習・演習などからなるカリキュラムを策定しています。



学 修 心 得

在籍・修了について

カリキュラムの履修について
(入学から修了までの教育プログラム)

履修計画の立て方

休学・退学について

学生生活について



学修心得

はじめに

この学生便覧は、信州大学大学院学則、学位規程、総合理工学研究科規程などの諸規程を中心に、信州大学の学生として学生生活を送るために、必要事項を定めたもので、極めて重要なものです。入学時において、よく理解・把握しておくこと。

在籍・修了について

■在籍期間

修業年限は2年です。また、在学期間は、修業年限の2倍を超えることはできません。

■修了

修了判定は、①「2年以上在学したこと」②「定められた授業科目30単位（履修方法参照）を取得したこと」、③「修士学位論文審査等に合格したこと」、④「最終試験に合格したこと」の4項目により判定します。

※サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムの学生は、プログラム修了に必要な単位が異なります。

■学位の種類

修了時に授与される学位は、工学専攻は修士（工学）、生命医工学専攻は修士（医工学）です。

■修士論文等の提出

修了を希望する者は、下記論文等提出期限までに修士論文審査申請書・修士論文を提出すること。

<修士論文審査申請書・修士論文の提出期限>

希望修了月	3月修了	9月修了
論文等提出期限	1月末日	7月末日

提出方法等の詳細は指導教員又は各分野の指示に従ってください。

■早期修了制度

原則は、2年以上在学した学生でなければ、修士課程を修了することはできませんが、研究科が優れた業績を上げたと認める者にかぎり、1年以上の在学により、在学期間に関する修了要件を満たすことができます。この早期修了を希望する学生は、下記の期限までに指導教員に申し出る必要があります。

<指導教員に申し出る期限>

希望修了月	4月入学生	10月入学生
1年修了申出期限	1年次の10月10日	1年次の4月10日
1.5年修了申出期限	2年次の4月10日	2年次の10月10日

■長期履修制度

職業を有している社会人学生を対象とする制度です。修学の便宜と授業料の軽減を図るため、2年間の授業料で最長4年間在学することができます。この制度の希望者は、原則として入学までに申し出ることが必要ですが、入学後でも下記の期限までに学務係に申し出ることにより、制度を利用することができます。

<学務係に申し出る期限>

入学月	4月入学生	10月入学生
申出期限	1年次の12月末日	1年次の6月末日

■留学に伴う計画的特例履修制度

交流協定による交換留学により標準修業年限内で修了が困難な学部学生に対して、履修期間を最長1年間延ばすことができる制度です。（標準修業年限の最終年次の学生及び上記長期履修を認められている学生を除く。）希望者は事前に制度が適用されるかどうか学務係へ確認してください。

■進級

1年次から2年次への進級判定は実施しません。よって留年は、修了判定の際にのみ発生します。

■教育職員免許状の取得について

教育職員免許状一種免許の取得者が、免許法に定める各々の課程の科目を修得し修了すると中学校及び高等学校の専修免許状の取得が可能となります。取得できる免許状の種類や指定科目等は、分野によって異なるため取得を希望する学生は学務係へ申し出てください。（概要は38ページ）

カリキュラムの履修について（入学から修了までの教育プログラム）

■履修方法

工学専攻（全分野）

講義14単位以上（研究科共通必修2単位，専攻共通必修2単位を含む），演習4単位以上，特別実験4単位以上，計30単位以上を修得する。ただし，講義8単位以上は選択した分野科目を，演習4単位以上及び特別実験4単位以上は選択したユニット又は分野共通科目を選択すること。

<修了に必要な単位数>

講義				演習	特別実験	合計
研究科必修科目	専攻必修科目	分野科目	選 択			
2単位	2単位	8単位以上		選択したユニット または分野共通科目	選択したユニット または分野共通科目	30単位 以上※
14単位以上				4単位以上	4単位以上	

※講義14単位+演習4単位+特別実験4単位のみ履修では計22単位です。30単位を満たしません。

生命医工学専攻（生命工学分野）

講義18単位以上（研究科共通必修2単位，専攻共通必修2単位，生命工学分野必修2単位を含む），演習4単位（生命工学分野必修），特別実験8単位（生命工学分野の必修），計30単位以上を修得する。

<修了に必要な単位数>

講 義				演 習	特別実験	合計
研究科必修科目	専攻必修科目	分野必修科目	選 択			
2単位	2単位	2単位		分野必修科目	分野必修科目	30単位 以上
18単位以上※				4単位	8単位	

※履修に当たって，自分の所属分野の選択科目から8単位以上，修得することが望ましい。

サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム（各分野に所属しプログラム科目を履修）

専攻の履修(30単位)に加え，次にあげる授業科目を12単位以上履修し，計42単位以上を修得する。

- ・研究科共通科目の学外特別講義(長期)2単位，学外特別実習(長期)2単位を修得する。【必修】
- ・講義は，研究科共通科目の科学英語2単位【必修】と，プログラムの各コース科目を6単位履修し，計8単位以上を修得する。

※履修にあたっては博士課程への進学を見据えて，科目の履修及び特定課題研究の指導を受けること。

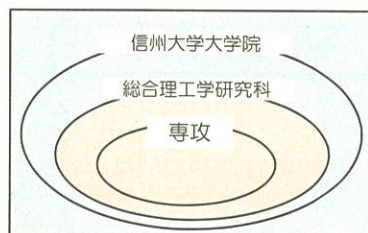
■分野以外の科目の履修

（総合理工学研究科規程第11条～第15条参照）

原則は，修了に必要な単位数は，自身の所属する分野の授業科目（自分分野科目）を修得することにより満たすものとするが，その他にも下記の授業科目を修得することにより，修了に必要な単位数を満たすことが認められています。

<修了に必要な単位数として算入することができる単位数>

授業科目の種別	単 位 数
自専攻共通科目	制限なし
自研究科共通科目	
他専攻科目	
他研究科科目	合計で10単位以内 履修には研究科の承認が必要
他大学院科目	



※他専攻・学部授業の授業科目の履修（総合理工学研究科規程第11条参照）

指導教員が特に必要と認めるときは，他専攻及び工学・繊維学部の講義科目を履修することができます。

ただし，学部授業の認定単位数は，修了に必要な単位数に算入しません。

※他研究科・他大学の履修

（総合理工学研究科規程第12条，13条参照）

本研究科が教育上有益と認めるときは，本学の他の研究科及び他の大学院（外国の大学院を含む）の授業科目を履修することができ，修了に必要な単位数として参入することができます。

※入学前に修得した単位

（総合理工学研究科規程第15条参照）

本研究科が教育上有益と認めるときは，学生が入学前に修得した単位について，修了に必要な単位数として算入することができます。

■他研究科での研究指導

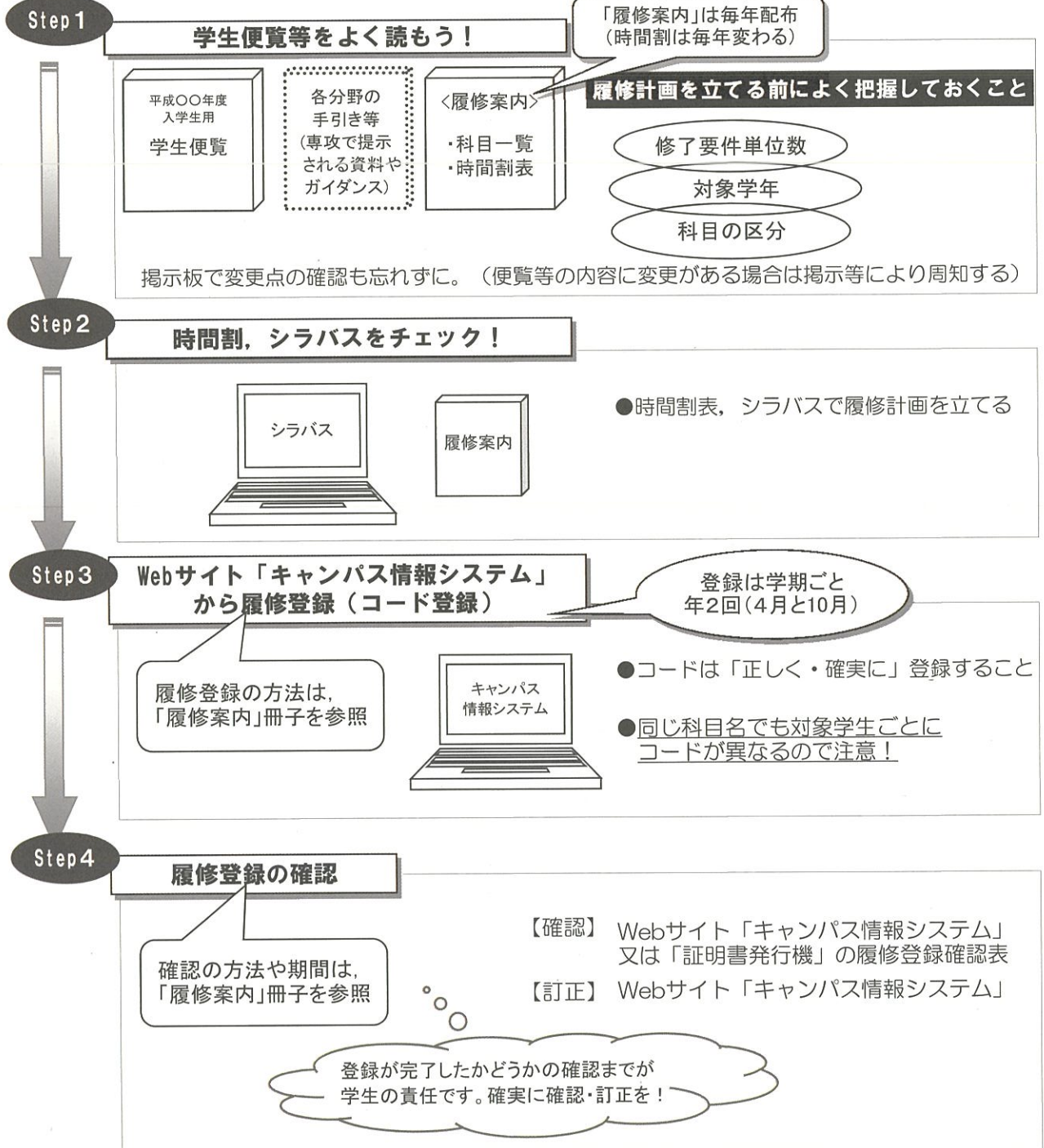
（総合理工学研究科規程第14条参照）

本研究科が教育上有益と認めるときは，他の大学院又は研究所等において必要な研究指導を受けることができます。なお，研究指導を受ける期間は，1年を超えないものとします。

■単位の認定

- ・履修科目の試験は，学期末又は学年末に筆記試験，口頭試問，研究報告などによって行い，その可否は当該授業科目担当教員が決定します。
- ・各科目の試験の成績の評語は，秀，優，良，可，不可とし，秀，優，良，可を合格，不可を不合格とします。
- ・試験に合格した者には，所定の単位を与えます。

履修計画の立て方（自分の時間割を組む）



■授業時間

時限	1	2	昼休み	3	4	5	6
授業時間	9:00 ∩ 10:30	10:40 ∩ 12:10			13:00 ∩ 14:30	14:40 ∩ 16:10	16:20 ∩ 17:50

社会人学生においては、当該年度在学生の希望にあわせ、教員の都合のつく範囲内で、可能な限り柔軟に対応します。上記時間帯以外に集中授業・非定時授業があります。履修案内の「科目一覧」を参照のこと。

■授業の欠席

本学では、いわゆる授業の公欠制度はありません。急病や近親者の葬儀等でやむを得ず授業を休まなければならない場合は、授業担当教員に直接説明すること。

■学年暦

履修案内に掲載してあります。

休学・退学について

休学、復学、休学延長及び退学のように学籍に関わる身分の異動を希望する者は、原則1カ月前までに工学部学務係へ申請してください。（転専攻、転科の申請時期等は別途確認のこと）

申請する前に、所属専攻の指導教員及び保証人（親等）と十分に相談し、承諾を得てください。申請用紙は学務係で配付します。申請期限に間に合わない等、その他不明な点は、早めに工学部学務係へ相談すること。【問い合わせ先 tel 026-269-5057】

休学

次の理由により、引き続き3か月以上修学することができない者で、休学を希望する者は、事前に所定の休学願により願い出て、学長の許可を得なければなりません。

なお、下記以外の理由では休学は許可されないので注意すること。

- 病気のため……願に加療期間が明記された医師の診断書を添付
- 経済的理由のため……願の申し立て欄に詳細な事由を記載
- 留学のため[大学との交流協定によるものは除く]……留学先の入学許可書等を添付
- 公共的な事業に参加するため[国又は地方公共団体等の求めによる場合]……願の申し立て欄に詳細な事由を記載

【注意事項】

期 間……1回の申請により休学できる期間は、1年以内です。

授業料……休学中は、授業料を支払う必要はありません。

在学年数……休学している期間は、修了に必要な在学年数にカウントされません。

よって、修了時期が延期されることとなります。（9月修了制度あり）

また、休学期間中は修了出来ません。注意すること。

復 学……許可された休学期間が満了する際は、復学の手続きを行うこと。

休学延長……許可された休学期間の満了後、延長して休学したい場合、延長申請の手続きを行うこと。
休学できる期間は通算24カ月（2年間）です。

退学

退学を希望する者は、事前に理由を付して所定の退学願の様式により願い出て、学長の退学許可を得ること。なお、退学希望期日に属する学期の授業料を完納しなければ、退学は許可されません。

学生生活について

ここに掲載していない手続きや詳細については、各種ガイダンス・関係資料・掲示等で説明します。

■「学生相談窓口」について

「学生相談窓口」……工学部学務係窓口（管理棟1F）

長野（工学）キャンパスでは、学務係窓口のほか、保健室において専門のカウンセラーに相談することもできます。気軽に何でも相談してください。

<長野工学キャンパス>

保健室URL：<http://www.eng.cs.shinshu-u.ac.jp/hoken1/hoken.htm>

カウンセラーによる学生相談申込のWEB予約フォーム：

上記保健室のホームページ内、又は、ACSU (<https://acsu.shinshu-u.ac.jp/ActiveCampus>) から予約できます。

■学生への伝達

学生への伝達等は、学内掲示板及びキャンパス情報システム又は携帯電話にて行います。

URL及び工学部ほか問い合わせ先は、巻末「Address & 問合せ先」を参照ください。

■住所変更等の届け出

本人又は保証人の住所・電話番号等に変更があった場合は、キャンパス情報システムから変更登録をしてください。変更登録を怠ると、大学からの緊急時の連絡がとれず修学に支障をきたすなど不利益になる場合があります。

■奨学金

奨学金は学業・人物ともに優秀で、学資の支弁が困難と認められる学生に対し貸与されるものです。募集等の連絡は掲示板で連絡します。

◇独立行政法人日本学生支援機構の奨学金

奨学金を希望する学生は大学を通じて募集期間内に手続きしてください。

家計に急激な変化が生じた学生は、随時対応となります。担当窓口へ相談してください。

◇日本学生支援機構以外の奨学金

大学を通じて募集するものは掲示板にて通知します。

地方公共団体の奨学金を希望する場合は、各自でそれらの団体へ問い合わせてください。

■授業料免除制度（説明会…1月下旬、申請時期…3月、後期分の中途申請も可）

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる学生について、選考の上、その期に納付すべき授業料の全額又は半額が免除される制度があります。授業料免除を希望する学生は、免除説明会で申請書類を受取り、必要事項を記入の上、添付書類を添えて期限までに学務係へ申請してください。説明会等の詳細は掲示により通知します。

■課外活動施設の使用

長野工学キャンパスの施設を使用する場合は、学務係窓口において、予約簿を確認の上、所定用紙により、使用3日前までに学務係へ願い出て、許可を受けてください。

■工学部学生寄宿舍「若里寮」（入寮対象者：長野（工学）キャンパスの学部2年次以降の男子学生）

入寮希望者は、規則集ページの「信州大学工学部寄宿舍若里寮規程」を参照の上、入寮希望日の1カ月前までに工学部学務係に申し出てください。

■構内の交通規制

- ・自動車での通学は禁止です。（身体障がい等の特別な事情の場合を除く）
- ・二輪車（バイク）の構内走行は禁止です。
- ・自転車、二輪車（バイク）は、構内の指定された駐輪場へ駐輪してください。
- ・公道への違法駐車及び大学周辺への迷惑駐車は厳禁です。

■構内での禁煙

- ・平成28年4月より構内での喫煙は禁止となりました。



履修プロセス概念図・授業科目一覧

研究科共通・専攻共通科目一覧

工学専攻 分野授業科目一覧

物質化学分野

電子情報システム工学分野

水環境・土木工学分野

機械システム工学分野

建築学分野

生命医工学専攻 分野授業科目一覧

生命工学分野

共通プログラム 授業科目一覧

サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム

教職課程認定 授業科目一覧

教職課程認定

研究科共通 授業科目一覧

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

研究科共通科目								
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
研究科共通科目	Introduction to Modern Astrophysics	講義	2	○		○		長野(工学)キャンパス開講
	MOT特論	講義	2	○		○		上田キャンパス開講
	産学連携特別講義	講義	2	○		○		上田キャンパス開講
	国際連携特別講義Ⅰ	講義	1	○		○		上田キャンパス開講 英語
	国際連携特別講義Ⅱ	講義	1	○		○		上田キャンパス開講 英語
	科学英語	講義	2		○		○	松本キャンパス開講 SUNS開講
	大学院と社会	講義	2	○		○		松本キャンパス開講 SUNS開講
	臨床医学概論	講義	2		○		○	松本キャンパス開講
	研究者倫理特別講義 (CITI-Japan&講義)	講義	2	○		○		【全員必修】
	科学技術政策特論	講義	2		○		○	長野(工学)キャンパス開講 隔年
	学外特別講義(長期)	講義	2	○		○		長野(工学)キャンパス開講 高度人材育成インターンシップ科目
	学外特別実習(長期)	特別実験	2	○		○		

教職	

サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム								
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
エネルギーコース	エネルギー材料科学特論Ⅰ	講義	2		○		○	
	エネルギー材料科学特論Ⅱ	講義	2	○		○		
	エネルギーデバイス総論	講義	2	○		○		
	エネルギーシステム特論Ⅰ	講義	2		○		○	
	エネルギーシステム特論Ⅱ	講義	2	○		○		
ウォーターコース	水環境科学特論	講義	2	○		○		
	水創成特論	講義	2		○		○	
	水利用システム特論	講義	2		○		○	
フードコース	食料機能学総論	講義	2	○		○		
	食資源利用学総論	講義	2	○		○		
	フードビジネス総論	講義	2	○		○		
	食料生命科学総論	講義	2	○		○		
	食農生産システム工学特論	講義	2	○		○		

教職	

専攻共通 授業科目一覧

★対象学年は、変更になる可能性がある。（毎年、履修案内で要確認）

工学専攻共通科目								
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
共通	実験的工学手法	講義	2	○	○			【工学専攻必修】
	応用数学特論	講義	2		○			
	応用物理学特論	講義	2	○				

教職	

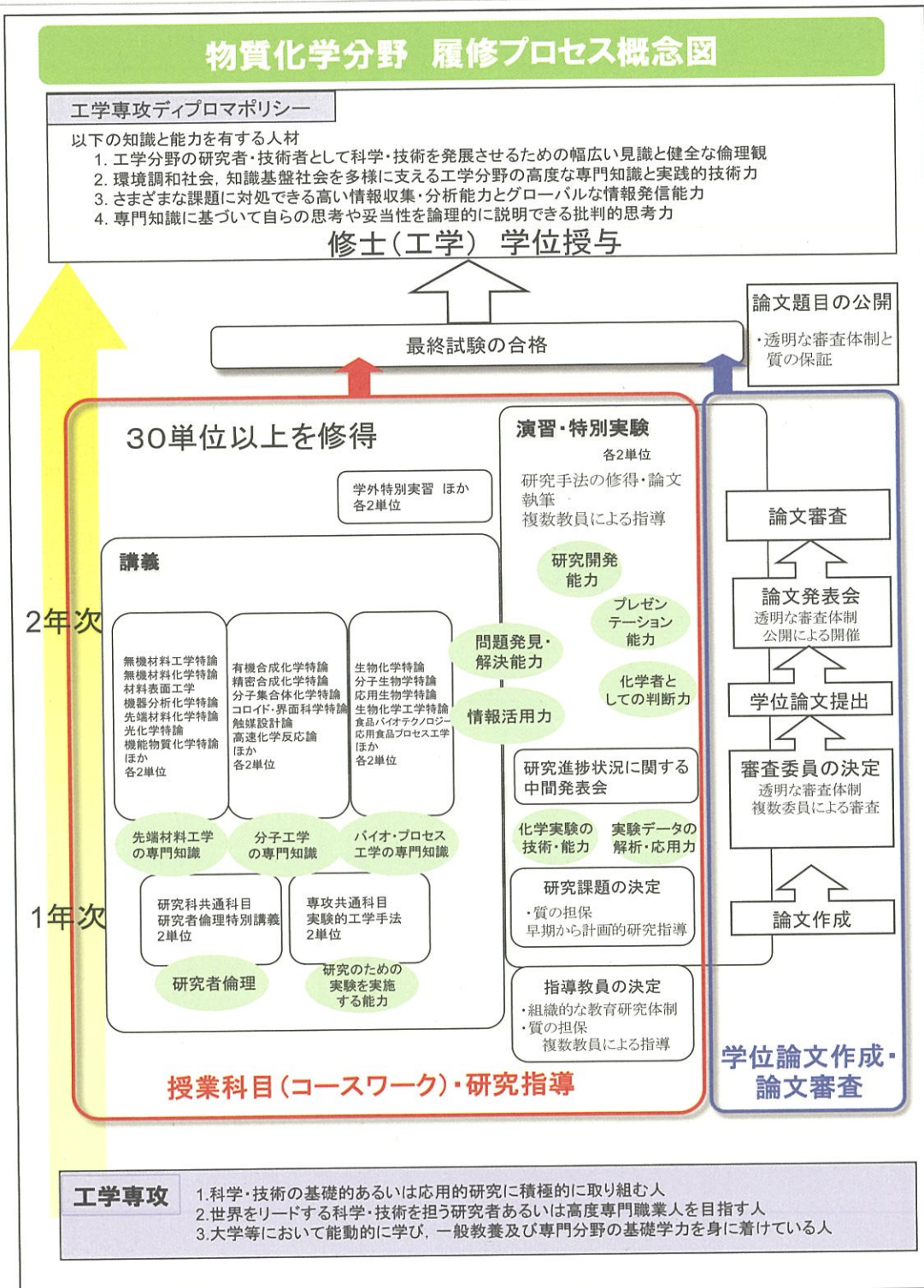
生命医工学専攻共通科目								
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
基礎	医療倫理学・社会医工学	講義	2	○		○		【生命医工学専攻必修】
応用	病院インターンシップ研修	特別実験	1	○		○		
	行政・企業インターンシップ研修	特別実験	4~6	○		○		

教職	

物質化学分野 ディプロマポリシー

1. 身のまわりの物質や材料、自然現象を専門的知識に基づいて化学的に考察でき、自ら問題点を発見し、解決する能力を有している
2. 高度な専門知識、総合的な判断力をもって研究開発を行うことができる研究者・技術者としての能力を有している
3. 専門知識と経験に基づいて、化学実験を計画・実施・解析できる能力と応用する能力をもつ
4. 化学者として自らの思考・判断を論理的に説明するためのプレゼンテーション能力をもち、発展的な議論に展開できる能力を持つ
5. 化学に対する幅広い専門知識を有し、社会・環境に対する化学の影響を意識したバランスの良い論理的判断を行うことができる

物質化学分野 履修プロセス概念図



工学専攻 物質化学分野 授業科目一覧

1/3

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			理	工
				前	後	前	後			
先進材料工学ユニット	無機材料工学特論	講義	2	○		○				
	無機材料工学演習	演習	2	○		○				
	無機材料工学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○						
	無機材料工学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○				
	無機材料化学特論	講義	2	○		○		○		
	無機材料化学演習	演習	2	○		○		○		
	無機材料化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	無機材料化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
	材料表面工学	講義	2	○		○		○		
	電気化学演習	演習	2	○		○		○		
	電気化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	電気化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
	機器分析化学特論	講義	2		○		○	○		
	機器分析化学演習	演習	2	○		○		○		
	機器分析化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	機器分析化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
	先進材料化学特論	講義	2	○		○		○		
	先進材料化学演習	演習	2	○		○		○		
	先進材料化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	先進材料化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
	光化学特論	講義	2		○		○	○		
	光化学演習	演習	2	○		○		○		
	光化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	光化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
	機能物質化学特論	講義	2		○		○	○		
	機能物質化学演習	演習	2	○		○		○		
	機能物質化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	機能物質化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
分子工学ユニット	有機合成化学特論	講義	2		○		○	○		
	分子集合体化学特論	講義	2		○		○	○		
	有機合成化学演習	演習	2	○		○		○		
	分子集合体化学演習	演習	2	○		○		○		
	有機合成化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	有機合成化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
	分子集合体化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	分子集合体化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		
	コロイド・界面科学特論	講義	2	○		○		○		
	コロイド・界面科学演習	演習	2	○		○		○		
	コロイド・界面科学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○				○		
	コロイド・界面科学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○		○		

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			理	工
				前	後	前	後			
分子工学ユニット	触媒設計論	講義	2		○		○			
	触媒設計演習	演習	2	○		○				
	触媒設計特別実験Ⅰ	特別実験	2	○						
	触媒設計特別実験Ⅱ	特別実験	2			○				
	高速化学反応論	講義	2		○		○			
	高速化学反応演習	演習	2	○		○				
	高速化学反応特別実験Ⅰ	特別実験	2	○						
	高速化学反応特別実験Ⅱ	特別実験	2			○				
	精密合成化学特論	講義	2	○		○			○	
	精密合成化学演習	演習	2	○		○			○	
	精密合成化学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○					○	
	精密合成化学特別実験Ⅱ	特別実験	2			○			○	
バイオ・プロセス工学ユニット	生物化学特論	講義	2	○		○			○	
	分子生物学特論	講義	2	○		○			○	
	応用生物学特論	講義	2		○		○		○	
	生物化学工学特論	講義	2		○		○		○	
	バイオ・プロセス工学演習Ⅰ	演習	2	○		○			○	
	バイオ・プロセス工学演習Ⅱ	演習	2	○		○			○	
	バイオ・プロセス工学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			○	
	バイオ・プロセス工学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			○	
	食品バイオテクノロジー	講義	2	○					○	
	応用食品プロセス工学	講義	2	○					○	
	食品科学	講義	2	○						
	食品バイテク実習	講義	1	○						
	食品プロセス実習	講義	1	○						
	機能性食品特別講義Ⅰ	講義	1	○		○				
機能性食品特別講義Ⅱ	講義	1	○		○					
分野共通	応用解析学特論	講義	2		○					
	数理解析特論	講義	2		○					
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○				
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○				
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○					
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○						
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○						
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○				
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○						

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			理	工
				前	後	前	後			
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○				
	学外特別講義	講義	2	○		○				
	学外特別実習Ⅰ	特別実験	2	○		○				
	学外特別実習Ⅱ	特別実験	2	○		○				
	(研究指導)			○		○				

ながのブランド郷土食『ながの食品加工マスター』 認定対象科目

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考
				1年次		2年次		
				前	後	前	後	
物質化学分野	食品バイオテクノロジー	講義	2	○				
	応用食品プロセス工学	講義	2	○				
	食品科学	講義	2	○				
	食品バイテク実習	講義	1	○				
	食品プロセス実習	講義	1	○				
	機能性食品特別講義Ⅰ	講義	1	○		○		隔年開講
	機能性食品特別講義Ⅱ	講義	1	○		○		隔年開講

★『ながの食品加工マスター』認定のためには、上記講義科目以外にも、演習4単位・特別実験科目8単位、学外特別講義、学外特別実習、他研究科での開講科目(経営大学院の授業科目)等の履修が必要です。詳細は「ながのブランド郷土食」事務局に問合せください。

電子情報システム工学分野 ディプロマポリシー

- 1 数学・物理学の基礎知識に加え、電気電子工学、通信工学、情報工学に関する専門的な知識を修得・活用することができる。
- 2 人類、社会の平和的・持続的発展のために、自然、社会、歴史、文化に対する幅広い教養を持ち、電子情報システム技術の社会、環境に対する影響について、倫理観を持って判断できる。自らの考えを他者に理解できるように伝達すると共に、相手の考えを十分に把握して論理的に討議できる高いコミュニケーション能力を有する。
- 3 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える電気電子工学に関する専門的な実験・演習を遂行し、様々な物理現象を解析できる。
- 4 さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力と深い基礎知識を活用し、電気電子工学、通信工学、情報工学に関する研究を遂行できる。
- 5 エネルギー・エレクトロニクス・情報通信分野に関する専門知識を修得し、グローバルな視点から知識を活用することができる。
- 6 コンピュータのハードウェア、ソフトウェアに関する高度な要素技術を理解し、ハードウェア、ソフトウェア、及びコンピュータ応用分野における卓越したシステムの設計、試作、評価を行うことができる。
- 7 コンピュータソフトウェアに関する専門知識及び卓越したプログラミング技術を有する。

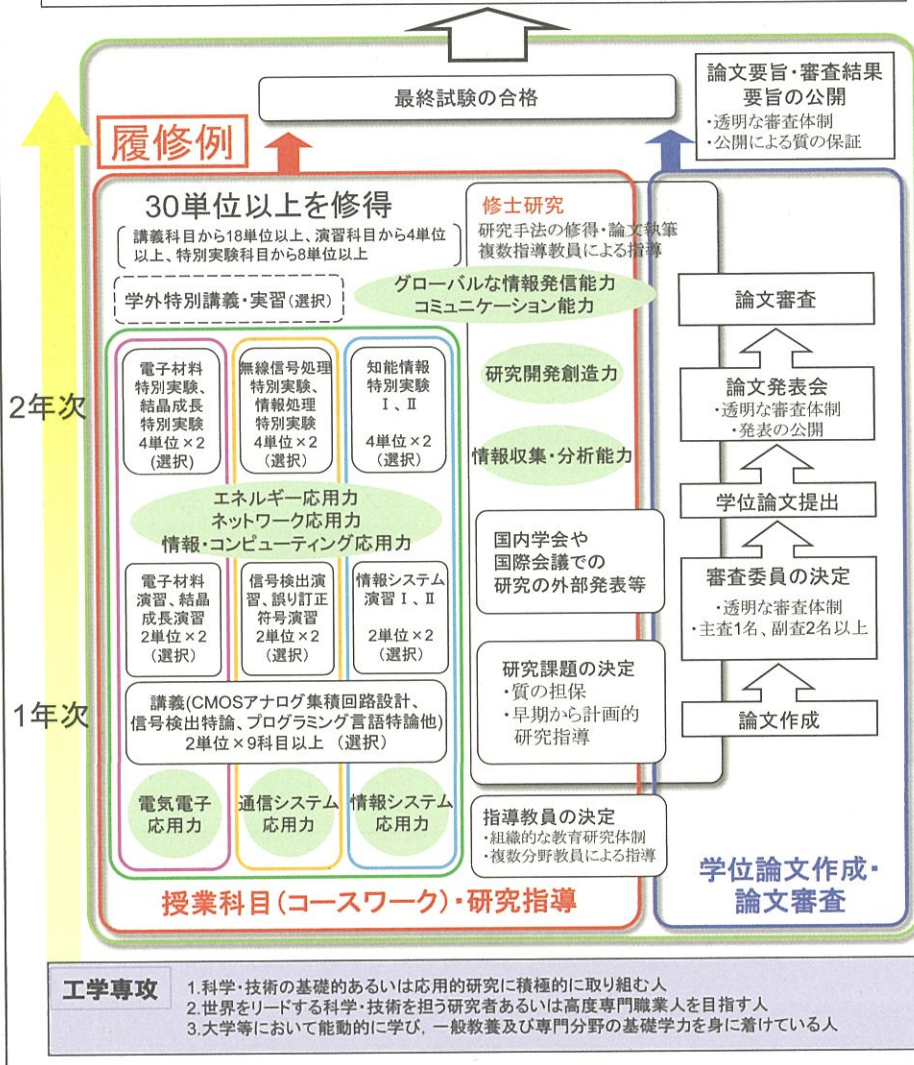
電子情報システム工学分野履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与



★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			情	工
				前	後	前	後			
電気電子ユニット	CMOSアナログ集積回路設計	講義	2		○				○	
	電子材料特論	講義	2	○					○	
	電子材料演習	演習	2		○					
	CMOSアナログ集積回路設計演習	演習	2		○					
	結晶成長演習	演習	2		○					
	電子材料特別実験	特別実験	4		○					
	CMOSアナログ集積回路設計特別実験	特別実験	4		○					
	結晶成長特別実験	特別実験	4		○					
	電子デバイス特論	講義	2		○					
	強誘電体材料特論	講義	2		○				○	
	エネルギーデバイス特論	講義	2		○				○	
	光エレクトロニクス特論	講義	2	○					○	
	結晶成長特論	講義	2		○				○	
	電子デバイス演習	演習	2		○					
	強誘電体材料演習	演習	2		○					
	光エレクトロニクス演習	演習	2		○					
	エネルギーデバイス演習	演習	2		○					
	電子デバイス特別実験	特別実験	4		○					
	強誘電体材料特別実験	特別実験	4		○					
	光エレクトロニクス特別実験	特別実験	4		○					
	エネルギーデバイス特別実験	特別実験	4		○					
	電気回路特論	講義	2	○					○	
	磁気回路特論	講義	2	○					○	
	電気回路システム演習	演習	2		○					
	磁気回路システム演習	演習	2		○					
	電気回路システム特別実験	特別実験	4		○					
	磁気回路システム特別実験	特別実験	4		○					
	電気エネルギー変換工学	講義	2		○				○	
	パワーマグネティックス演習	演習	2		○					
	パワーマグネティックス特別実験	特別実験	4		○					
	知覚情報論	講義	2	○						
	電気電子工学特論	講義	2		○				社会人学生対象	
ソフトウェア工学特論	講義	2		○				社会人学生対象		
モバイル制御特論	講義	2			○			社会人学生対象		
航空宇宙工学特論	講義	2			○			社会人学生対象		
通信システム	信号検出特論	講義	2	○					○	
	誤り訂正符号特論	講義	2	○						
	無線信号処理特論	講義	2		○				○	
	無線通信システム設計特論	講義	2		○				○	
	情報処理特論	講義	2	○					○	

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			情	工
				前	後	前	後			
通信システムユニット	情報理論特論	講義	2	○					○	
	情報システム工学特論	講義	2		○				○	
	信号検出演習	演習	2	○		○				
	誤り訂正符号演習	演習	2	○		○				
	無線通信システム設計演習	演習	2	○		○				
	無線信号処理演習	演習	2	○		○				
	情報処理演習	演習	2	○		○				
	情報理論演習	演習	2	○		○				
	情報システム工学演習	演習	2	○		○				
	信号検出特別実験	特別実験	4	○		○				
	誤り訂正符号特別実験	特別実験	4	○		○				
	無線通信システム設計特別実験	特別実験	4	○		○				
	無線信号処理特別実験	特別実験	4	○		○				
	情報処理特別実験	特別実験	4	○		○				
	情報理論特別実験	特別実験	4	○		○				
	情報システム工学特別実験	特別実験	4	○		○				
情報システムユニット	プログラミング言語特論	講義	2		○		○		○	
	計算理論	講義	2	○		○			○	
	情報基礎特論Ⅰ	講義	2	○		○				
	情報基礎特論Ⅱ	講義	2		○		○			
	情報基礎特論Ⅲ	講義	2		○		○		○	
	情報基礎演習Ⅰ	演習	2	○					○	
	情報基礎演習Ⅱ	演習	2	○					○	
	情報基礎演習Ⅲ	演習	2			○			○	
	情報基礎演習Ⅳ	演習	2			○			○	
	情報基礎特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					○	
	情報基礎特別実験Ⅱ	特別実験	4	○					○	
	情報基礎特別実験Ⅲ	特別実験	4			○			○	
	情報基礎特別実験Ⅳ	特別実験	4			○			○	
	知能情報特論Ⅰ	講義	2	○		○			○	
	知能情報特論Ⅱ	講義	2	○		○				
	知能情報特論Ⅲ	講義	2	○		○			○	
	知能情報特論Ⅳ	講義	2		○		○			
	知能情報演習Ⅰ	演習	2	○					○	
	知能情報演習Ⅱ	演習	2	○					○	
	知能情報演習Ⅲ	演習	2			○			○	
知能情報演習Ⅳ	演習	2			○			○		
知能情報演習Ⅴ	演習	2			○			○		
知能情報特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					○		
知能情報特別実験Ⅱ	特別実験	4	○					○		

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			情	工
				前	後	前	後			
情報システムユニット	知能情報特別実験Ⅲ	特別実験	4			○		○		
	知能情報特別実験Ⅳ	特別実験	4			○		○		
	知能情報特別実験Ⅴ	特別実験	4			○				
	計算機システム特論	講義	2	○		○		○		
	計算機デバイス特論	講義	2		○		○	○		
	情報システム特論Ⅰ	講義	2	○		○		○		
	情報システム特論Ⅱ	講義	2	○		○		○		
	情報システム演習Ⅰ	演習	2	○				○		
	情報システム演習Ⅱ	演習	2	○				○		
	情報システム演習Ⅲ	演習	2	○				○		
	情報システム演習Ⅳ	演習	2			○		○		
	情報システム演習Ⅴ	演習	2			○				
	情報システム特別実験Ⅰ	特別実験	4	○				○		
	情報システム特別実験Ⅱ	特別実験	4	○				○		
	情報システム特別実験Ⅲ	特別実験	4			○		○		
	情報システム特別実験Ⅳ	特別実験	4			○		○		
	情報システム特別実験Ⅴ	特別実験	4			○				
	情報計測特論Ⅰ	講義	2		○		○		○	
	情報計測特論Ⅱ	講義	2		○		○		○	
	応用情報工学Ⅰ	講義	2		○		○		○	
	応用情報工学Ⅱ	講義	2	○		○			○	
	応用情報工学Ⅲ	講義	2	○		○			○	
	情報計測演習Ⅰ	演習	2	○					○	
	情報計測演習Ⅱ	演習	2	○					○	
	情報計測演習Ⅲ	演習	2			○			○	
	情報計測演習Ⅳ	演習	2			○			○	
	情報計測特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					○	
	情報計測特別実験Ⅱ	特別実験	4	○					○	
	情報計測特別実験Ⅲ	特別実験	4			○			○	
	情報計測特別実験Ⅳ	特別実験	4			○			○	
	情報メディア学特論Ⅰ	講義	2	○		○			○	
	情報メディア学特論Ⅱ	講義	2		○		○			
	情報メディア学特論Ⅲ	講義	2	○		○				
	情報メディア学演習Ⅰ	演習	2	○						
情報メディア学演習Ⅱ	演習	2	○							
情報メディア学演習Ⅲ	演習	2			○			○		
情報メディア学演習Ⅳ	演習	2			○			○		
情報メディア学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					○		
情報メディア学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○					○		
情報メディア学特別実験Ⅲ	特別実験	4			○			○		

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			情	工
				前	後	前	後			
情報システムユニット	情報メディア学特別実験Ⅳ	特別実験	4			○		○		
	情報セキュリティ特論	講義	2	○		○				
	セキュリティ社会システム特論	講義	2	○		○		○		
	情報セキュリティ演習Ⅰ	演習	2	○				○		
	情報セキュリティ演習Ⅱ	演習	2			○		○		
	情報セキュリティ特別実験Ⅰ	特別実験	4	○				○		
	情報セキュリティ特別実験Ⅱ	特別実験	4			○		○		
分野共通	応用解析学特論	講義	2		○					
	数理解析特論	講義	2		○					
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○				
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○				
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○					
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○						
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○						
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○				
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○						
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○				
	学外特別講義	講義	2	○		○				
	学外特別実習Ⅰ	特別実験	2	○		○				
	学外特別実習Ⅱ	特別実験	2	○		○				
(研究指導)				○		○				

水環境・土木工学分野 ディプロマポリシー

1. 水環境・土木工学全般のさまざまな問題に対処できる、高度な専門技術者として必要な幅広い知識や高い工学的な問題解決能力と表現力・対話力、グローバルな情報発信力を身につけている
2. 安全・安心で持続可能な水環境や社会環境を構築するための高い情報収集・分析能力、高度な専門知識と実践的な技術力を身につけている
3. 信頼される高度な専門技術者としての精神と倫理観を身につけている
4. 水環境・土木工学分野において、地域適合型技術の幅広い適用に努めることができる

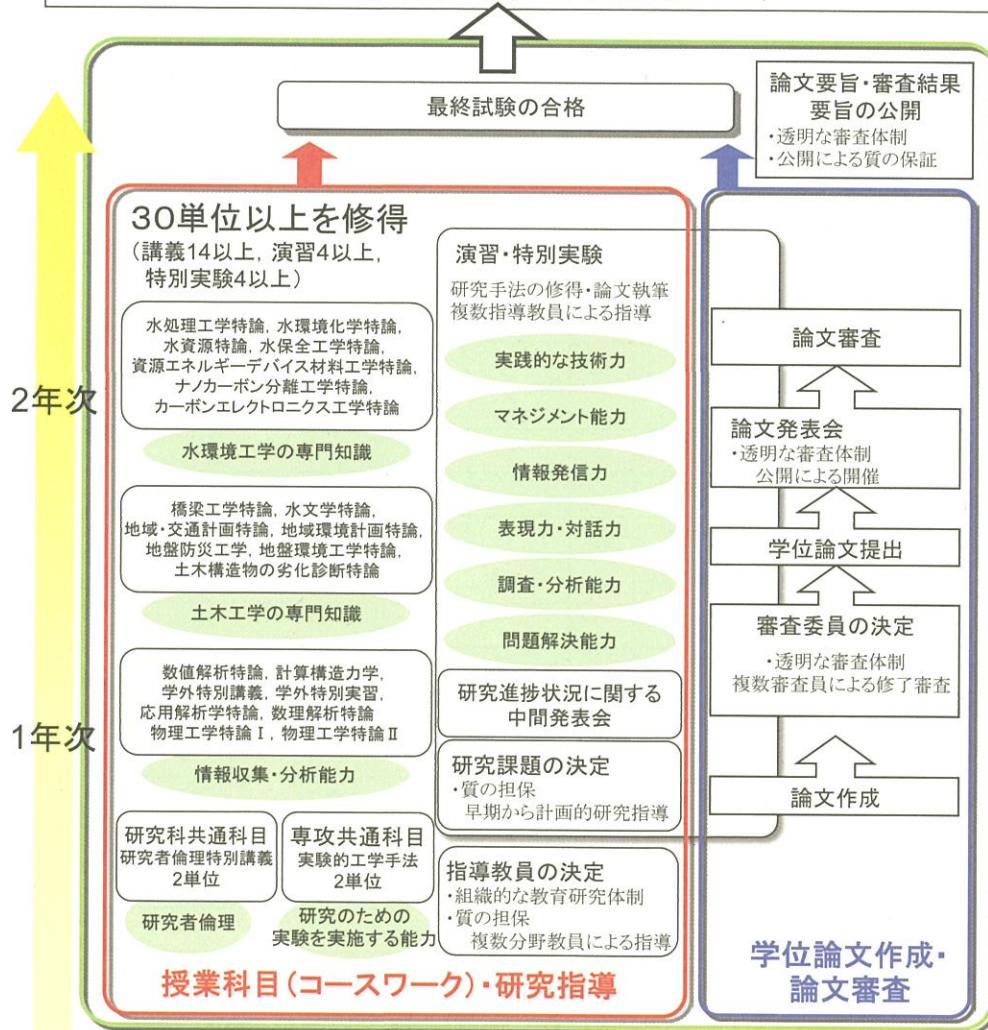
水環境・土木工学分野 履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与



工学専攻

1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人
3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人

工学専攻 水環境・土木工学分野 授業科目一覧

1/2

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			理	工
				前	後	前	後			
水環境ユニット	水処理工学特論	講義	2		○				○	
	水処理工学演習	演習	4	○					○	
	水処理工学特別実験	特別実験	4	○					○	
	資源エネルギーデバイス材料工学特論	講義	2		○		○		○	
	資源エネルギーデバイス材料工学演習	演習	4	○		○			○	
	資源エネルギーデバイス材料工学特別実験	特別実験	4	○		○			○	
	水環境化学特論	講義	2		○		○	○		
	水環境化学演習	演習	4	○		○		○		
	水環境化学特別実験	特別実験	4	○		○		○		
	ナノカーボン分離工学特論	講義	2	○					○	
	ナノカーボン分離工学演習	演習	4	○					○	
	ナノカーボン分離工学特別実験	特別実験	4	○					○	
	カーボンエレクトロニクス工学特論	講義	2	○					○	
	カーボンエレクトロニクス工学演習	演習	4	○					○	
	カーボンエレクトロニクス工学特別実験	特別実験	4	○					○	
土木ユニット	橋梁工学特論	講義	2	○					○	
	橋梁工学演習	演習	4	○					○	
	橋梁工学特別実験	特別実験	4	○					○	
	水文学特論	講義	2	○				○		
	水文学演習	演習	4	○				○		
	水文学特別実験	特別実験	4	○				○		
	地域・交通計画特論	講義	2		○		○		○	
	地域・交通計画演習	演習	4	○		○			○	
	地域・交通計画特別実験	特別実験	4	○		○			○	
	地盤環境工学特論	講義	2		○				○	
	地盤環境工学演習	演習	4	○					○	
	地盤環境工学特別実験	特別実験	4	○					○	
	土木構造物の劣化診断特論	講義	2		○		○		○	
	土木構造物の劣化診断演習	演習	4	○		○			○	
	土木構造物の劣化診断特別実験	特別実験	4	○		○			○	
分野共通	地盤防災工学	講義	2	○					○	
	地盤防災演習	演習	4	○					○	
	地盤防災特別実験	特別実験	4	○					○	
	水資源特論	講義	2		○			○		
	水資源演習	演習	4	○				○		
	水資源特別実験	特別実験	4	○				○		
	水保全工学特論	講義	2		○				○	
	水保全工学演習	演習	4	○					○	
	水保全工学特別実験	特別実験	4	○					○	
	数値解析特論	講義	2		○			○		

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			理	工
				前	後	前	後			
分野共通	数値解析演習	演習	4	○				○		
	数値解析特別実験	特別実験	4	○				○		
	計算構造力学	講義	2	○		○		○		
	計算構造力学演習	演習	4	○		○		○		
	計算構造力学特別実験	特別実験	4	○		○		○		
	地域環境計画特論	講義	2		○		○	○		
	地域環境計画演習	演習	4	○		○		○		
	地域環境計画特別実験	特別実験	4	○		○		○		
	応用解析学特論	講義	2		○					
	数理解析特論	講義	2		○					
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○				
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○				
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○					
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○						
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○						
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○				
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○						
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○				
	学外特別講義	講義	2	○						
学外特別実習	特別実験	2	○							
(研究指導)				○		○				

機械システム工学分野 ディプロマポリシー

1. 機械システム工学の基礎を理解した上で、応用発展させることができる。
2. 物理現象を理解・考察し、正確かつ安全な機械工学分野の実験を計画・実施し、解析する能力を有する。
3. 機械工学分野の研究を自らの論理的思考により遂行する能力を有する。
4. 現象と課題を理解し、論理的判断ができ、解決する方法を自ら創造できる能力を有する。
5. 自然および人類社会が直面している環境問題を理解し、問題を解決する基礎的能力を身につけることができる。
6. 安全で環境負荷を低減するための新しい機械材料を開発することができる。
7. 自然エネルギーを利用した環境にやさしい機械を開発することができる。
8. 人や社会をサポートする知能機械を開発することができる。

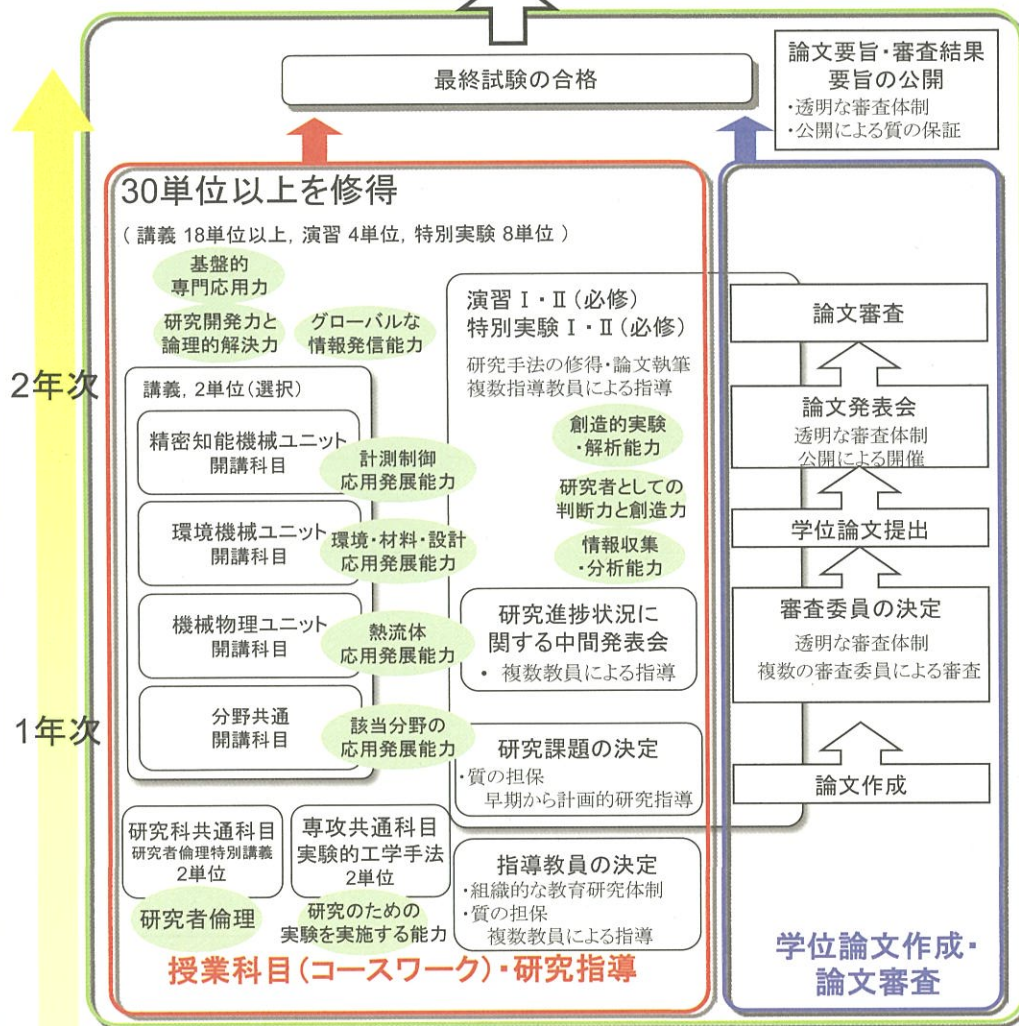
機械システム工学分野 履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与



工学専攻

1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人
3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身につけている人

工学専攻 機械システム工学分野 授業科目一覧

1/2

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			理	工
				前	後	前	後			
精密知能機械ユニット	システム制御特論	講義	2	○					○	
	精密機構特論	講義	2		○				○	
	機械システム制御特論	講義	2	○					○	
	計測システム特論	講義	2	○					○	
	精密知能機械演習Ⅰ	演習	2		○				○	
	精密知能機械演習Ⅱ	演習	2		○				○	
	精密知能機械特別実験Ⅰ	特別実験	4		○				○	
	精密知能機械特別実験Ⅱ	特別実験	4				○		○	
環境機械ユニット	機械加工学特論	講義	2		○				○	
	動的システム設計特論	講義	2		○				○	
	塑性加工学特論	講義	2		○				○	
	構造物工学特論	講義	2	○					○	
	固体力学特論	講義	2	○				○		
	エコマテリアル特論	講義	2	○				○		
	材料環境強度学特論	講義	2	○				○		
	計算力学特論	講義	2	○				○		
	最適設計学特論	講義	2				○		○	
	環境機械演習Ⅰ	演習	2		○				○	
	環境機械演習Ⅱ	演習	2		○				○	
	環境機械特別実験Ⅰ	特別実験	4		○				○	
	環境機械特別実験Ⅱ	特別実験	4				○		○	
機械物理ユニット	乱流輸送現象特論	講義	2	○					○	
	熱流体数値計算法特論	講義	2		○				○	
	伝熱工学特論	講義	2		○				○	
	流体力学特論	講義	2		○				○	
	熱流動解析学特論	講義	2	○					○	
	機械物理演習Ⅰ	演習	2		○				○	
	機械物理演習Ⅱ	演習	2		○				○	
	機械物理特別実験Ⅰ	特別実験	4		○				○	
	機械物理特別実験Ⅱ	特別実験	4				○		○	
分野共通	超精密加工実習Ⅰ	講義	1	○		○			社会人学生対象☆	
	超精密加工実習Ⅱ	講義	1	○		○			社会人学生対象☆	
	超精密加工実習Ⅲ	講義	1	○		○			社会人学生対象☆	
	超精密加工実習Ⅳ	講義	1	○		○			社会人学生対象☆	
	先端精密加工実習	講義	1		○		○		社会人学生対象☆	
	超精密加工学特論Ⅰ	講義	2	○		○			社会人学生対象☆	
	超精密加工学特論Ⅱ	講義	2	○		○			社会人学生対象☆	
	超精密加工学特論Ⅲ	講義	1	○		○			社会人学生対象☆	
	発明的問題解決理論	講義	1		○		○		社会人学生対象☆	
	表面処理・計測評価技術特論	講義	2		○		○		社会人学生対象☆	

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職	
				1年次		2年次			理	工
				前	後	前	後			
分野共通	先端材料学特論	講義	1		○		○			
	精密位置決め技術特論	講義	2		○		○			
	管理技術特論Ⅰ	講義	2	○		○				
	管理技術特論Ⅱ	講義	2	○		○				
	機械システム演習Ⅰ	演習	2	○						
	機械システム演習Ⅱ	演習	2			○				
	機械システム特別実験Ⅰ	特別実験	4	○						
	機械システム特別実験Ⅱ	特別実験	4			○				
	応用解析学特論	講義	2		○					
	数理解析特論	講義	2		○					
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○				
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○				
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○				
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○				
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○					
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○						
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○						
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○				
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○						
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○				
	学外特別講義	講義	2	○		○				
学外特別実習	特別実験	2	○		○					
(研究指導)				○		○				

「超精密加工技術」社会人プログラム（☆印の授業科目）

職業を有する社会人を対象とした文部科学省認定「職業実践力育成プログラム」（BP）プログラムです。このプログラムでは、岡谷・諏訪地域の協力企業・協力機関において実施する講義・実習を受講すること、また、受講者・各企業からの持ち込み課題を研究テーマに据えた実験、研究指導を受けることも可能です。（事前に指導予定教員との相談が必要です。）



文部科学省「職業実践力育成プログラム」（BP）—Brush up Program for professional—大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムを文部科学大臣が認定し、社会人の学び直しを推進する制度です。2015年度から認定がはじまりました。

建築学分野 ディプロマポリシー

建築技術者としての自覚、
 建設技術の基礎となる認識力、
 建築と都市の双方にわたる総合的な思考
 建築環境デザイン力・建築構造デザイン力・新旧統合デザイン力をもつ人材

建築学分野 履修プロセス概念図

工学専攻ディプロマポリシー

以下の知識と能力を有する人材

1. 工学分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える工学分野の高度な専門知識と実践的技術力
3. さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
4. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力

修士(工学) 学位授与

最終試験の合格

論文要旨・審査結果
要旨の公開

透明な審査体制
公開による質の保証

30単位以上を修得

4単位 マトリクス構造 解析演習・実験	4単位 建築環境設計学 演習・実験	4単位 建築保存再生 設計学実験	4単位 建築心理学実験 建築意匠 設計学実験 建築史学実験
---------------------------	-------------------------	------------------------	---

建築構造 デザイン能力	建築環境 デザイン力	新旧統合 デザイン力	建築と都市の 双方にわたる 総合的な思考
建築と都市の 双方にわたる 総合的な思考	建設技術の基 礎となる認識力	建築技術者として の自覚	

2単位 建築構造設計学 I・II	2単位 建築設備設計学 建築環境設計学 サステイナブル 建築設計学	2単位 建築保存再生 設計学 建築意匠設計学 空間構造設計学	2単位 建築心理学 建築史特論
4単位 建築構造設計学 演習・実験	4単位 建築設備設計学 演習・実験 サステイナブル建築 設計学演習・実験	4単位 建築保存再生 設計学演習 建築意匠設計学 演習・実験	4単位 建築心理学演習 建築史演習
建築構造設計 インターンシップ	建築設備設計イン ターンシップ	建築保存再生 設計学 インターンシップ	建築意匠設計 インターンシップ

建築構造 デザイン力	建築環境 デザイン力	建設技術の基 礎となる認識力	建設技術の基 礎となる認識力
建築技術者 としての自覚	建築技術者 としての自覚	建築と都市の 双方にわたる 総合的な思考	建築と都市の 双方にわたる 総合的な思考
建設技術の基 礎となる認識力	建設技術の基 礎となる認識力	建築環境 デザイン力	建築技術者 としての自覚
建築と都市の 双方にわたる 総合的な思考	建築と都市の 双方にわたる 総合的な思考	新旧統合 デザイン力	

授業科目(コースワーク)・研究指導

演習・特別実験

研究進捗状況
に関する
中間発表会

研究手法の修得・
論文執筆
複数指導教員に
よる指導

研究課題の決定
質の担保
早期から計画的 研究
指導

指導教員の決定
組織的な教育研究体制
質の担保
複数分野教員による指
導

論文審査

論文発表会
透明な審査体制
公開による開催

学位論文提出

審査委員の決定

透明な審査体制
主指導教員≠審査主査
学外審査委員の登用

論文作成

学位論文作成・論
文審査

2年次

1年次

工学専攻

1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人
3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人

工学専攻 建築学分野 授業科目一覧

1/2

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

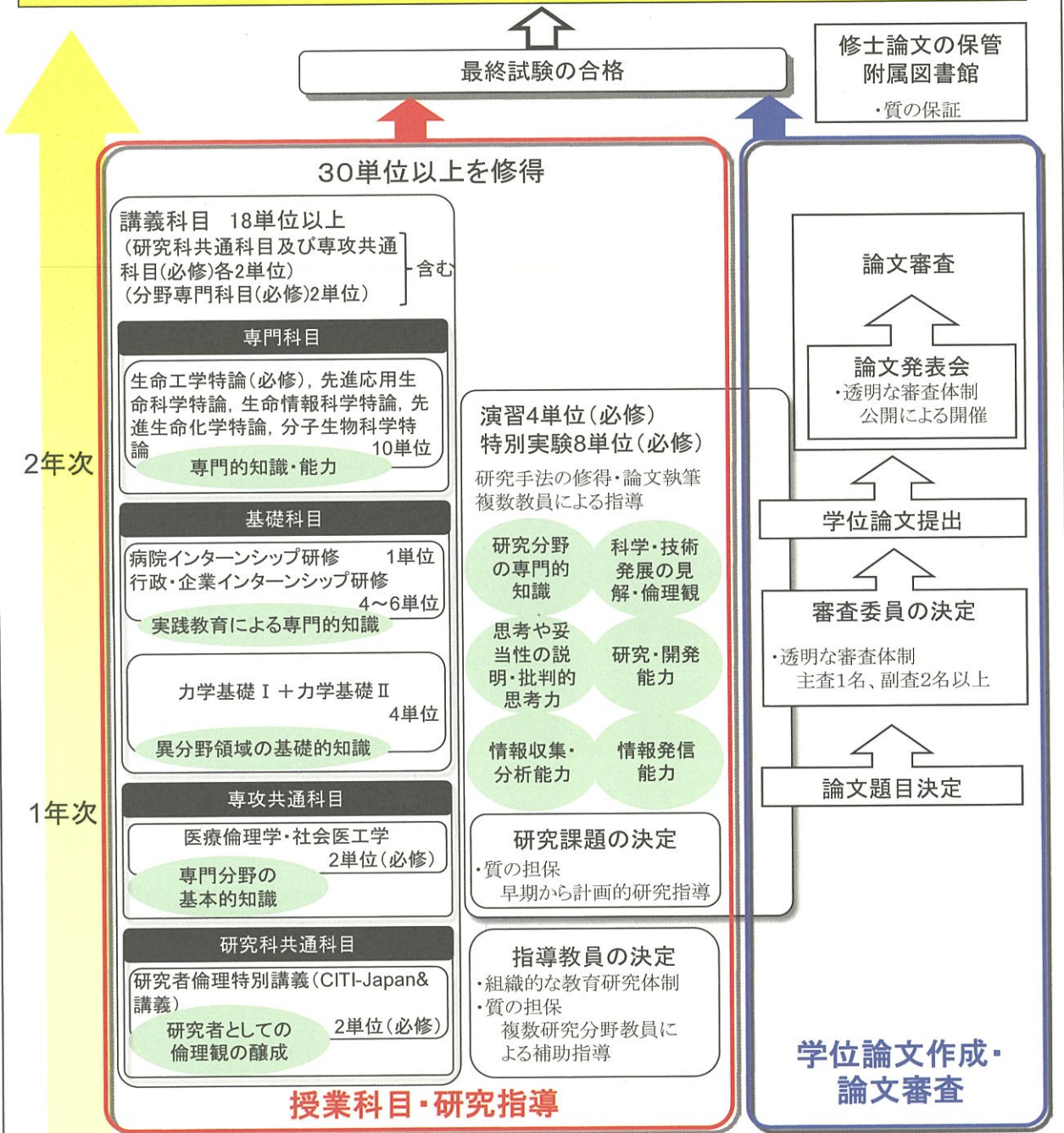
区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
建築学ユニット	建築意匠設計学	講義	2		○				○
	建築意匠設計学演習	演習	4	○					○
	建築意匠設計学実験	特別実験	4			○			○
	建築意匠設計インターンシップ	演習	4	○					○
	建築保存再生設計学	講義	2		○				○
	建築保存再生設計学演習	演習	4	○					○
	建築保存再生設計学実験	特別実験	4			○			○
	建築保存再生設計インターンシップ	演習	4	○					○
	サステナブル建築設計学	講義	2		○				○
	サステナブル建築設計学演習	演習	4	○					○
	サステナブル建築設計学実験	特別実験	4	○					○
	空間構造設計学	講義	2	○					
	空間構造設計学演習	演習	4	○					
	空間構造設計学特別実験	特別実験	4	○					
	建築構造設計学Ⅰ	講義	2		○				○
	マトリクス構造解析演習	演習	4			○			○
	マトリクス構造解析実験	特別実験	4			○			○
	建築構造設計学Ⅱ	講義	2	○					○
	建築構造設計学演習	演習	4	○					○
	建築構造設計学実験	特別実験	4	○					○
	建築構造設計インターンシップ	演習	4	○					○
	建築設備設計学	講義	2	○					○
	建築設備設計学演習	演習	4	○					○
	建築設備設計学実験	特別実験	4	○					○
建築設備設計インターンシップ	演習	4	○					○	
工芸デザインユニット	建築環境設計学	講義	2		○				○
	建築環境設計学演習	演習	4			○			○
	建築環境設計学実験	特別実験	4			○			○
	建築心理学	講義	2		○				○
	建築心理学演習	演習	4	○					○
	建築心理学実験	特別実験	4			○			○
	建築史学特論	講義	2	○					○
	建築史学演習	演習	4	○					○
建築史学実験	特別実験	4			○			○	
分野共通	応用解析学特論	講義	2		○				
	数理解析特論	講義	2		○				
	応用数学演習Ⅰ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅱ	演習	2	○		○			
	応用数学演習Ⅲ	演習	2	○		○			
	応用数学特別実験Ⅰ	特別実験	4	○		○			

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職 工
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
分野 共通	応用数学特別実験Ⅱ	特別実験	4	○		○			
	応用数学特別実験Ⅲ	特別実験	4	○		○			
	物理工学特論Ⅰ	講義	2		○				
	物理工学特論Ⅱ	講義	2	○					
	応用物理演習Ⅰ	演習	2	○					
	応用物理演習Ⅱ	演習	2			○			
	応用物理特別実験Ⅰ	特別実験	4	○					
	応用物理特別実験Ⅱ	特別実験	4			○			
	学外特別講義	講義	2	○					
	学外特別実習	特別実験	2	○					
	(研究指導)				○		○		

生命医工学専攻 生命工学分野 履修プロセス概念図

・健康・福祉・医療・創薬分野の研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観
 ・環境調和社会, 知識基盤社会を多様に支える健康・福祉・医療・創薬分野の高度な専門知識と実践的技術力
 ・さまざまな課題に対処できる高い情報収集・分析能力とグローバルな情報発信能力
 ・専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を論理的に説明できる批判的思考力
 以上の能力を有する人材

『修士(医工学)』学位授与



- 1.大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人
- 2.健康・医療・福祉分野の基礎的あるいは応用的研究に高い意欲をもって取り組む人
- 3.科学技術を担う研究者あるいは高度専門職業人として社会をリードするとともに、その技術と知識を持って国際社会に貢献する意欲を持つ人
- 4.科学技術の発展が社会にもたらす影響について十分に考え、社会及び自然環境に配慮したものづくりを目指す人

生命医工学専攻 生命工学分野 授業科目一覧

1 / 1

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
基礎科目	力学基礎Ⅰ	講義	2	○				理 ○	
	力学基礎Ⅱ	講義	2	○				○	
専門科目	生命工学特論	講義	2	○			【生命工学分野必修】	○	
	先進応用生命科学特論	講義	2	○		○		○	
	生命情報科学特論	講義	2	○		○		○	
	先進生命化学特論	講義	2	○		○		○	
	分子生物科学特論	講義	2	○		○		○	
	生命工学演習Ⅰ	演習	1	○			【生命工学分野必修】		
	生命工学演習Ⅱ	演習	1		○		【生命工学分野必修】		
	生命工学演習Ⅲ	演習	1			○	【生命工学分野必修】		
	生命工学演習Ⅳ	演習	1				○	【生命工学分野必修】	
	生命工学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○			【生命工学分野必修】		
	生命工学特別実験Ⅱ	特別実験	2		○		【生命工学分野必修】		
	生命工学特別実験Ⅲ	特別実験	2			○	【生命工学分野必修】		
生命工学特別実験Ⅳ	特別実験	2				○	【生命工学分野必修】		

生命医工学専攻 生体医工学分野 授業科目一覧

1 / 1

★対象学年は、変更になる可能性がある。(毎年、履修案内で要確認)

区分	授業科目名	形態	単位数	対象学年				備考	教職
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
基礎科目	生物学基礎Ⅰ	講義	2	○				理 ○	
	生物学基礎Ⅱ	講義	2		○			○	
専門科目	生体医工学特論	講義	2	○			【生体医工学分野必修】	○	
	生体ロボット学特論	講義	2	○		○			
	医療ロボット学特論	講義	2		○		○		
	生体流体力学特論	講義	2		○		○	○	
	生体マイクロデバイス特論	講義	2	○		○		○	
	生体情報システム学特論	講義	2		○		○	○	
	基礎連続体統計学特論	講義	2		○		○		
	動物行動学特論	講義	2	○		○		○	
	生体材料学特論	講義	2		○		○	○	
	バイオメカニクス特論	講義	2	○		○		○	
	生体応答学特論	講義	2		○		○	○	
	生体計測学特論	講義	2		○		○	○	
	生体医工学演習Ⅰ	演習	1	○			【生体医工学分野必修】		
	生体医工学演習Ⅱ	演習	1		○		【生体医工学分野必修】		
	生体医工学演習Ⅲ	演習	1			○	【生体医工学分野必修】		
	生体医工学演習Ⅳ	演習	1				○	【生体医工学分野必修】	
	生体医工学特別実験Ⅰ	特別実験	2	○			【生体医工学分野必修】		
	生体医工学特別実験Ⅱ	特別実験	2		○		【生体医工学分野必修】		
生体医工学特別実験Ⅲ	特別実験	2			○	【生体医工学分野必修】			
生体医工学特別実験Ⅳ	特別実験	2				○	【生体医工学分野必修】		

総合理工学研究科（修士課程）、総合工学系研究科（博士課程）を横断する5年一貫プログラムです。修士・博士課程の、各専攻に所属し、所属専攻の専門科目について学びながら以下のプログラム独自のカリキュラムについても学びます。プログラムのカリキュラムを履修することにより、社会で役に立つ幅広い知識、他分野への展開力、環境経営能力、国際性などを身につけることができます。

1. 先端技術・研究開発の基礎知識の習得

エネルギー、フード、ウォーターに関する最先端の研究を各キャンパスに所属する教員から学び、先端技術の研究開発に必要な基礎・専門知識を身につけます。

- エネルギー材料科学、エネルギーデバイス、エネルギーシステム
- 水環境科学、水創成、水利用システム
- 食料機能学、食資源利用学、フードビジネス、食料生命科学、食農生産システム工学

2. 他分野への展開力養成（研究室ローテーション）

所属研究室以外に2つの研究室へそれぞれ2ヶ月間赴き、研究手法・実験方法を体験し、様々な角度から研究にアプローチする方法を身につけます。また、他分野科目も履修することにより専門分野の枠を超えた幅広い知識を身につけ、主専門研究分野へ応用する力を養います。

3. 環境技術経営能力の養成（MOT科目の履修）

信州大学経営大学院の授業科目を履修し、社会人学生と共に経営に必要な能力、社会問題を解決するための方法を身につけます。

- 経営大学院イノベーションマネジメント専攻
 - ・3科目から2科目選択必修：マーケティング論、サステナビリティ概論、マネジメント入門
 - ・選択2科目：経営大学院の開講科目から選択
- 総合工学系研究科
 - ・「科学技術政策特論」

4. 実践力の養成（高度人材育成インターンシップ）

研究開発の手法や社会人としての教養などの事前指導の後、インターンシップ実習、事後教育を実施し、企業で役立つ実践力を身につけます。

5. グローバルに活躍できる人材の養成

（海外留学）

博士課程では3ヶ月以上の長期海外留学を実施し、国際的な研究・開発能力やコミュニケーション能力を養います。

6. プロジェクト展開力の養成（プロジェクト研究）

産学官共同研究、国際プロジェクト研究などをベースにした博士研究を通じて、専門知識はもちろんプロジェクト遂行に必要な能力、論理的思考能力を身につけます。

サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム学生への支援

経済的支援

- 授業料免除 ※プログラム生対象の特例による免除は平成31年度まで。標準修業年限を越えた分の授業料について免除は受けられません。
- ティーチングアシスタント（TA）・リサーチアシスタント（RA）への任用
- インターンシップ・海外留学の経費支援
- その他（TOEIC受験料補助など）

キャリアパス支援

産学間人材マッチングフォーラムによる産業界との出会いの確保

教員サポート

所属専攻の指導教員のほか、プログラムの主専門科目担当教員と副専門科目担当教員による指導

その他

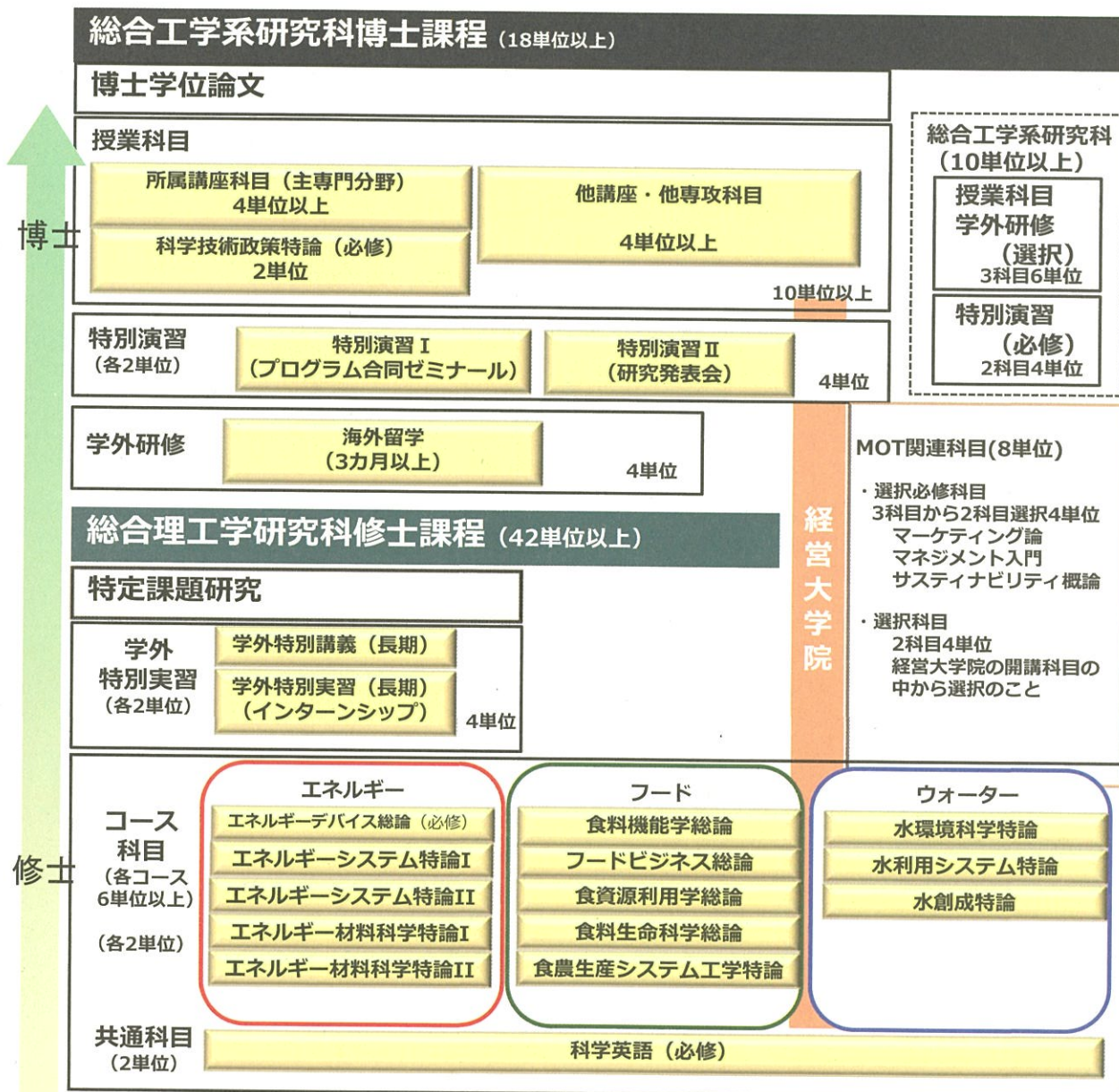
E-learningによる英語自習

サステナブルサイエティグローバル人材養成プログラム修士課程の修了要件

- ① 2年以上在学し、専攻の履修(30単位)に加え、各コースの定める12単位以上修得し、計42単位以上を修得する。
- ② 研究室ローテーション、インターンシップ、合同ゼミナルに参加する。
- ③ 「特定の課題についての研究」に対する指導を受け、在学中に成果報告書を提出し、審査に合格する。
- ④ 最終試験に合格する。

サステナブルサイエティグローバル人材養成プログラムの履修モデル

授業科目は平成28年度現在のものです。変更になる場合があります。



所属専攻の履修 (30単位) : 各専攻・分野の授業科目一覧参照

講義科目の他分野科目履修

所属コース (エネルギー/フード/ウォーター) に関連する他分野科目の選択が望ましい。

研究室ローテーション 各専攻の以下の科目の一部として実施

理学専攻の「演習」「特別研究」、工学専攻の「演習」「特別実験」、繊維学専攻の「演習」「特別実験」、農学専攻の「演習」「特別研究」、生命医工学専攻の「演習」「特別実験」

合同ゼミナル

各専攻の以下の科目の一部として実施
 理学専攻・工学専攻・繊維学専攻・農学専攻・生命医工学専攻の「演習」

教職課程について

工学専攻では、学部有的时候に取得した一種免許状をもとに、専修免許状を取得することができます。

■教員免許状の種類について

取得できる免許状の種類と教科は以下のとおりです。

【工学専攻】

分野名	免許状の種類及び免許教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
物質化学分野	理科	理科・工業
電子情報システム工学分野	-	情報・工業
水環境・土木工学分野	理科	理科・工業
機械システム工学分野	理科	理科・工業
建築学分野	-	工業

【生命医工学専攻】

分野名	免許状の種類及び免許教科	
	中学校教諭専修免許状	高等学校教諭専修免許状
生命工学分野	理科	理科
生体医工学分野	理科	理科

■修得すべき科目

各分野の授業科目一覧に、教職対応科目が示されています。単位数・修得方法など、詳細は必ず「教職課程の履修手引」を参照してください。※学務窓口で希望者に配布します。

■工学部教職科目の履修（一種免許状取得）について

研究科所属学生は、工学部の教職関係科目を履修する場合、検定料・入学料・授業料の全てが免除となります。学部的时候に取り逃した科目を履修し、一種免許状を取得することも可能です。希望者は、履修登録期間に学務窓口にご相談してください。

（教職科目に関する単位をほとんど取得していない状態では、修士2年間で一種免許状を取得することは困難です。）



規則集 1 (申合せ・取扱要項)

信州大学学生の懲戒に関する規程（抄）

進級に関する申合せ

学外研修の取扱い

他の大学院等における研究指導に関する取扱要項

在学期間1年以上2年未満で修了する者の取り扱いに関する申合せ

長期履修学生制度の取扱要項

学位論文等審査及び最終試験並びに修了判定実施要項

大学院総合理工学研究科修士論文評価基準

学生の懲戒

【信州大学学生の懲戒に関する規程（抄）】

本学の規則に違反し、または学生としての本分に反する表1のような行為は、懲戒（退学・停学・訓告）の対象となります。

対象となる行為には、アルコール飲料に関すること・自動車運転に関すること・コンピューターやネットワークに関することなどの身近な行為が原因となることもあれば、他人の自転車を勝手に乗り回すこと・鉄道で不正乗車を行うことなどの、社会的に犯罪行為とみなされるものもあります。

また、試験でのカンニング、レポート等でのコピー&ペースト、授業出席の代返等を軽い気持ちで行うと、停学（無期または有期）や、当該学期科目の単位認定がされない（主な事例は表2参照）ことによる、最低半年から1年の進級・卒業延長もあります。特に悪質な場合は退学になります。

【表1】

	懲戒対象行為	該当する懲戒の種類
A 学内秩序を乱す行為	① 「国立大学法人信州大学におけるハラスメントの防止等に関する規程」に抵触する行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	② 本学が実施する試験等における不正行為(詳細は表2に掲げる事例とする)	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	③ 飲酒を強要し, アルコール飲料の一气飲み等が原因となり死に至らしめた行為	退学または停学(無期)
	④ 飲酒を強要し, アルコール飲料の一气飲み等が原因となり急性アルコール中毒等の被害を与えた行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑤ 未成年者と知りながら飲酒を強要した行為	停学(無期または有期)または訓告
	⑥ 本学の教育研究または管理運営を著しく妨げた行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑦ 本学構成員に対する暴力行為, 威嚇行為, 拘禁行為, 拘束行為等	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑧ 本学が管理する建造物への不法侵入または不正使用, 若しくは占拠した行為	停学(無期または有期)または訓告
	⑨ 本学が管理する建造物または器物等の損壊行為, 汚損行為, 不法改築行為等	停学(無期または有期)または訓告
	⑩ 「信州大学における研究活動上の不正行為の防止等に関する規程」に抵触する行為(データ捏造・改ざんに関わる行為, 論文盗用, 著作権の侵害等)	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑪ 反社会的団体の活動を行っており, その活動が他の学生等に影響を及ぼし本学の秩序を乱すものと認められた行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
	⑫ 違法薬物(麻薬, 大麻等)と類似の効果を持つ薬物を, 正当な理由(治療目的等)なく, 使用, 所持, 譲渡, 仲介若しくは入手しようとする行為	退学, 停学(無期または有期)または訓告
B 犯罪行為	① 殺人, 強盗, 強姦, 放火等の凶悪な犯罪行為または犯罪未遂行為	退学
	② 薬物犯罪行為(麻薬・大麻等の薬物使用・不法所持・売買・仲介等)	退学または停学(無期または有期)
	③ 傷害, 窃盗, 詐欺, 恐喝, 賭博, 住居侵入, 他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為	退学または停学(無期または有期)
	④ 痴漢行為(覗き見, わいせつ, 盗撮行為その他の迷惑行為を含む。)	退学または停学(無期または有期)

	⑤ 「スーカ行爲等の規制等に関する法律（平成12年法律第81号）」に定める犯罪行爲	退学または停学(無期または有期)
	⑥ 「児童買春、児童ポルノに係る行爲等の処罰及び児童の保護等に関する法律（平成11年5月26日法律第52号）」に定める犯罪行爲	退学または停学(無期または有期)
	⑦ コンピューターまたはネットワークを用いた犯罪行爲	退学または停学(無期または有期)
C 交通事 故・違 反	① 死亡または高度な後遺症を伴う交通事故を起こした場合で、その原因行爲が無免許運転、飲酒運転、暴走運転等の悪質な場合	退学
	② 人身事故を伴う交通事故を起こした場合で、その原因行爲が無免許運転、飲酒運転、暴走運転等の悪質な場合	退学または停学(無期または有期)
	③ 無免許運転、飲酒運転、暴走運転等の悪質な交通法規違反行爲	停学(無期または有期)
	④ 死亡または高度な後遺症を伴う人身事故を起こした場合で、その原因行爲が過失の場合	退学または停学(無期または有期)
	⑤ 後遺症等を伴う人身事故を起こした場合で、その原因行爲が過失の場合	停学(無期または有期)または訓告

【表2】

本学が実施する試験等における不正行爲の事例		単位認定の可否	
		当該科目	不正行爲を行った学期の科目
単位認定に係る試験時の行爲	替え玉受験をすること及び替え玉受験を依頼すること。	認定しない	認定しない
	許可されていないノートまたは参考書等を使用すること。		
	答案を交換すること。		
	他の受験者の答案を見ることまたは他の受験者に答案を見せること。		
	試験監督者の注意または指示に従わない場合で特に悪質と認められるもの。		
	その他不正な行爲と認められること。		
単位認定に係るレポート(卒業論文等含む)の行爲	他人の著作物を盗用すること。	認定しない	認定しないことができる
	実験や調査結果のデータを捏造または偽造すること。		
	他人が書いたレポート並びに著作物を自分のものとして提出すること。		
他の学生に成り代わり授業に出席または代返等の行爲を行った者並びに同行爲を依頼した者。	認定しないことができる	特に悪質な場合認定しないことができる	
授業の実施に係るその他不正な行爲と認められること。			

進級に関する申合せ

(趣旨)

- 第1 この申合せは、信州大学工学部（以下「工学部」という。）、信州大学大学院総合理工学研究科工学専攻（以下「修士課程」という。）の学生の進級に関し必要な事項を定める。
- 2 工学部においては、4年生への進級判定（各学科等が別に定める進級に必要な最低修得単位数等のカリキュラム上の条件に対する判定をいう。以下同じ。）のみ実施することとし、修士課程においては、進級判定は実施しないことを前提とする。

(進級の時期)

- 第2 進級の時期は、4月1日又は10月1日とする。

(進級条件)

- 第3 上位の学年への進級条件は、在籍年次に12ヶ月以上在学（休学期間を除く。以下同じ。）することとする。
- 2 工学部4年生への進級については、前項の在学月数を満たし、かつ、各学科が別に定める進級に必要な条件（最低修得単位数等のカリキュラム上の条件）を満たした者を対象とする。

(年度途中に進級した者のガイダンス及び履修)

- 第4 年度の途中において進級した者は、学科等が行うガイダンスを受けるものとし、当該者が履修できる授業科目は、学科等の定めるところによる。

(工学部4年生への進級判定)

- 第5 工学部4年生への進級判定は、学年末及び前期末に実施することとし、進級判定が可能となった直後の学務委員会に諮った後、教員会議で決定する。
- 2 進級判定の対象者は、工学部3年生のうち、当該学期末時点において3年次に12ヶ月以上在学した者のみとする。

(雑則)

- 第6 この申合せにより難い事案が発生した場合は、学務委員会において審議の上、決定する。
- 2 進級に関する事務は、学務グループ（学務係）において処理する。

附 則（平成23年2月1日信州大学工学部代議員会決定）

- 1 この申合せは、平成23年2月2日から実施する。
- 2 この申合せ実施の際、現に工学部4年生として取り扱われている者で、卒業研究を課されていない者については、この申合せ実施日以降3年生として取り扱い、この申合せを適用するものとする。

附 則

- 1 この申合せは、平成28年4月1日から実施する。
- 2 改正前の同申合せは、平成28年3月31日に信州大学大学院理工学系研究科に在学する者に対して、この申合せの施行後も、なおその効力を有する。

学外研修の取扱い

学生が学外研修を希望した場合の取扱いは、次のとおりとする。

1. 学外研修を希望する学生は、指導教員及び授業担当教員に申し出る。
2. 授業担当教員は、研修先と連絡をとり、実施可能な場合は、学生にその旨連絡する。
3. 学生は、別紙「学外研修計画書」を指導教員及び授業担当教員の承認を得て、研究科長へ提出する。
4. 研究科長は、研究科長名で研修先へ学外研修の依頼をする。
5. 学外研修を終了した学生は、別紙「学外研修報告書」を授業担当教員に提出する。
6. 授業担当教員は、「学外研修報告書」に基づき相当する授業科目として単位の認否を行う。

学外研修計画書 (用紙A4)

専攻・分野名 _____
 学籍番号 _____ 氏名 _____ 印

研修先所在地 _____
 研修機関 _____
 研修期間 _____
 研修課題 _____

研修内容 _____

指導教員承認印 指導教員名 _____ 印
 授業担当教員承認印 授業担当教員名 _____ 印

学外研修報告書 (用紙A4)

専攻・分野名 _____
 学籍番号 _____ 氏名 _____ 印

研修先所在地 _____
 研修機関 _____
 研修期間 _____
 研修課題 _____

研修内容 _____

研修先指導者の
 の 所 見 _____

職名 _____ 氏名 _____ 印

指導教員承認印 指導教員名 _____ 印
 授業担当教員承認印 授業担当教員名 _____ 印

他の大学院等における研究指導に関する取扱要項

(趣旨)

第1条 信州大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第36条の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科の学生が他の大学の大学院若しくは研究所等又は外国の大学の大学院若しくは研究所等（以下「他の大学院等」という。）において、特定の課題について研究指導を受ける場合の取扱いについては、この要項の定めるところによる。

(協議)

第2条 大学院学則第36条に規定する協議は、他の大学院等と事前に次の各号に掲げる事項について、指導教員が調整の上、研究科長が行う。

- (1) 研究課題
- (2) 研究期間
- (3) 対象となる学生
- (4) 研究終了の取扱
- (5) 授業等費用の取扱方法
- (6) その他必要な事項

(研究指導の許可)

第3条 他の大学院等において研究指導を受けることの許可は、代議員会の議を経て、研究科長が行う。ただし、研究指導を受ける大学院等が外国にある場合は、学長にその許可を申請するものとする。

(受入れの依頼)

第4条 研究科長は、前条により研究指導を受けることを許可した学生について、大学院等に受入れを依頼するものとする。

(研究指導の手続)

第5条 他の大学院等において研究指導を受けようとする者は、大学院等が国内にある場合は、履修願（別紙様式1）を、外国にある場合は留学願（別紙様式2）を指導教員の承認を得て、研究科長に提出しなければならない。

2 前項において、事前の協議ができない外国の大学院又は研究所等において研究指導を受けようとする者にあつては、大学院等の受入れを内諾する旨の証明書を添付しなければならない。

(研究指導の許可期間)

第6条 他の大学院等で研究指導を受けることのできる期間は、1年を超えないものとする。

(研究課題)

第7条 他の大学院等において受ける研究指導の課題は、研究科の学生として必要かつ適切な指導を受けることが期待できる研究課題とする。

(研究報告)

第8条 他の大学院等において研究指導を受けることを許可された者は、研究指導を受け始めたときは、直ちに研究開始届（別紙様式3）を研究科長に提出しなければならない。

2 他の大学院等において研究指導を受け終わったときは、直ちに研究終了届（別紙様式4）及び研究成果報告書（別紙様式5）に大学院等から交付された研究指導を受け終わったことの証明書等を添付の上研究科長に提出しなければならない。

(授業料の納付)

第9条 他の大学院等において研究指導を受けることを許可された者は、当該期間中においても、信州大学に所定の授業料を納付しなければならない。

別紙様式1

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____
学籍番号 _____
氏 名 _____ 印
指導教員氏名 _____ 印

履 修 願

信州大学大学院学則第36条の規定に基づき、下記のとおり研究指導を受けたいので御許可くださるようお願いいたします。

記

1. 研究指導を受ける他の大学院研究科名又は研究所名

2. 履修期間

平成 年 月 日から平成 年 月 日まで

3. 研究課題

4. 理 由

別紙様式2

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____
学籍番号 _____
氏 名 _____ 印
指導教員氏名 _____ 印

留 学 願

信州大学大学院学則第36条の規定に基づき、下記のとおり研究指導を受けたいので留学いたしたく、御許可くださるようお願いいたします。

記

1. 留学先（研究指導を受ける他の大学院研究科名又は研究所名）

2. 所在地

3. 留学期間

平成 年 月 日から平成 年 月 日まで

4. 出発（予定）年月日 平成 年 月 日

5. 研究課題

6. 理 由

7. 渡航先の連絡場所

8. 旅費及び滞在費

備考 滞在保証書又はこれに類する書類及び当該大学院等の概要又は案内書を添付すること。

別紙様式3

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____ 印

研究開始届

私は、 _____ (大学大学院) _____ (研究所) で _____ の _____ (研究科) の

指導の下に研究課題 _____ についての研究を _____ 月 _____ 日から開始しましたのでお届けします。

指導教員・氏名 _____ 印

別紙様式4

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____

学籍番号 _____

氏 名 _____ 印

研究終了届

私は、 _____ (大学大学院) _____ (研究所) で _____ の _____ (研究科) の

指導の下に研究課題 _____ についての研究を行っていましたが _____ 月 _____ 日終了しましたのでお届けします。

指導教員・氏名 _____ 印

別紙様式5

平成 年 月 日

総合理工学研究科長 殿

専攻・分野名 _____
学籍番号 _____
氏 名 _____ 印

研 究 成 果 報 告 書

1. 研究指導を受けた他の大学院研究科名又は研究所名
2. 研究指導者の職・氏名
3. 研究期間
平成 年 月 日から平成 年 月 日まで
4. 研究課題
5. 研究成果概要（600字以内）

信州大学大学院総合理工学研究科 工学専攻における

在学期間1年以上2年未満で修了する者の取り扱いに関する申合せ

(趣旨)

第1条 この申合せは、信州大学大学院学則（平成16年4月7日信州大学学則第2号。以下「大学院学則」という。）第40条の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科工学専攻（以下「修士課程」という。）の在学期間1年以上2年未満で修了（以下「早期修了」という。）する者の取り扱いに関し必要な事項を定める。

(対象者)

第2条 早期修了の対象となる者は、修了を希望する学期の終了時（3月又は9月）に在学期間が1年以上に達し、かつ、事前審査の承認を得た後、所定の修了要件を満たした者とする。

(事前審査)

第3条 早期修了を希望する者は、3月に修了を希望する場合は10月10日までに、9月に修了を希望する場合は4月10日までに、指導教員に申し出ることとする。

2 指導教員は、次の各号に掲げる書類（原則としてA4版で様式自由）により、希望者の所属する分野の分野会議の承認を受ける。

一 学生からの申出書

二 学生の履歴書

研究歴を主として記載したもの。

三 学生の単位修得状況（修得見込みを含む）に関する調書

四 学生の修士論文作成状況に関する調書

五 指導教員の推薦理由書

この申合せの適用を受けるに値する優秀であること、学業成績に関する所見、研究課題に対するアプローチの仕方における学生の資質と寄与の程度及び研究能力に関する所見等とともに記載したもの。

六 学生の業績書

学位論文に関連した筆頭著者の原著論文1編以上または作品1件以上に関する資料が添付されたもの。

七 指導教員は、前各号に掲げるもののほか、必要と認める場合には、次の書類を提出できる。

イ 学生が、他の大学院又は外国の大学院で修得した単位がある場合には当該大学院の成績証明書

ロ 修了後の進路に関する調書（博士課程への進学等）

ハ その他参考となる書類

3 当該分野の学務委員は、分野会議の承認が得られた後、前項の書類を、3月に修了を希望する場合は10月末日までに、9月に修了を希望する場合は4月末日までに、学務委員長に提出する。

4 学務委員長は、学務委員会に諮った後、総合理工学研究科委員会修士課程工学分科会に諮る。

5 学務委員長は、事前審査結果を当該希望者に通知するとともに総合理工学研究科長へ報告する。

(修士学位論文の審査)

第4条 事前審査に合格した者は、別に定める修士論文審査等に関する要項に従い、修士学位論文の審査手続きを行う。

(雑則)

第5条 この申合せにより難い事案が発生した場合は、学務委員会において審議の上、決定する。

2 早期修了に関する事務は、学務グループ（学務係）において処理する。

3 第3条における期日は、年度により変更されることがある。

附 則（平成23年7月19日工学系研究科委員会修士課程工学分科会決定）

この申合せは、平成23年10月1日から実施する。

附 則

この申合せは、平成24年4月1日から実施する。

附 則

1 この申合せは、平成28年4月1日から実施する。

2 改正前の同申合せは、平成28年3月31日に信州大学大学院理工学系研究科に在学する者に対して、この申合せの施行後も、なおその効力を有する。

長期履修学生制度の取扱要項

この取扱要項は、信州大学大学院総合理工学研究科規程（平成28年信州大学規程第 号）第16条に定める長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修学生制度」という。）について、社会人学生等を対象に計画的な長期在学・履修により修学の便宜と授業料の軽減を図ることを目的として、本研究科における取扱いを、次のとおり定める。

1. 申請資格
原則として職業を有している社会人とする。
2. 長期履修の開始日
原則として年次の始めとする。
3. 長期履修の在学年限
4年間を超えることはできない。
4. 申請手続き
長期履修を希望する学生は、入学手続期間内に「長期履修希望調書」（別紙様式1）を、入学後に「長期にわたる教育課程の履修申請書」（別紙様式2）を研究科長に提出する。
在學生にあつては1年次の後学期が終了する2か月前までに「長期にわたる教育課程の履修申請書」（別紙様式2）を研究科長に提出する。
休学に伴う変更については、「休学に伴う長期にわたる教育課程の履修計画変更申請書」（別紙様式3-1）を研究科長に提出する。
また、相当の理由により長期履修期間を延長する場合は、「長期にわたる教育課程の履修期間変更申請書」（別紙様式3-2）を研究科長に提出する。
5. 履修期間の短縮申請手続き
申請が認められた学生が在学期間を短縮する場合は、各学期が終了する2か月前までに「長期にわたる教育課程の履修期間の短縮申請書」（別紙様式4）を研究科長に提出する。
6. 審査及び報告
研究科長は、提出された申請書の審査を専攻会議に付託する。
なお、審査結果は、当該学生あてに許可書（別紙様式5, 6-1, 6-2, 7）を通知するとともに、学長に報告（別紙様式8, 9-1, 9-2, 10）する。
7. 授業料の納入
申請を許可された学生は、「信州大学授業料等に関する規程（平成16年信州大学規程第85号）」が定める長期履修学生の所定の授業料を各学期の納期限までに納入する。そのほか、短縮を許可された場合及び学年途中で修了する場合も同規程による。

附 則

この取扱いは、平成28年4月1日から施行する。

(別紙様式1)

平成 年 月 日

(別紙様式1) 裏面なし

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科
専攻

入学年度
受験番号
氏 名
生年月日 (西暦
(元号)) 年 月 日生

長期履修希望調書

標記のことについて、下記のとおり希望します。

記

履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

現 職

(別紙様式2)

平成 年 月 日

(別紙様式2) 裏面

履修計画

(入学時点からのものを記載すること)

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻

入学年度
学籍番号
氏 名
生年月日 (西暦
(元号)) 年 月 日生

●修得単位数等

・修得単位数.....単位
・その他.....

●履修計画

履修年度	前 期	後 期
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		

長期にわたる教育課程の履修申請書

標記のことについて、下記のとおり申請します。

記

申請理由

履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

履修計画 (※裏面に詳細に記載してください。)

指導教員

※ 計画的な教育課程の修業年限は、大学院学則第16条に定める在学期間を超えることはできない。

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻

入学年度

学籍番号

氏名

生年月日 (西暦(元号)) 年 月 日生

休学に伴う長期にわたる教育課程の履修計画変更申請書

標記のことについて、下記のとおり申請します。

記

休学理由.....

休学期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日

履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

履修計画 (※裏面に詳細に記載してください。)

指導教員 []

履修計画

(入学時点から休学期間も含めて記載すること)

●修得状況及び今後の履修計画

履修年度	前 期	後 期
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		

※ 計画的な教育課程の修業年限は、大学院学則第16条に定める在学期間を超えることはできない。

信州大学大学院総合理工学研究科長 殿

信州大学大学院総合理工学研究科 専攻

入学年度

学籍番号

氏名

生年月日 (西暦(元号)) 年 月 日生

長期にわたる教育課程の履修期間の短縮申請書

標記のことについて、下記のとおり申請します。

記

申請理由.....

認められている履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

短縮する履修期間 平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日
(入学年月日を記入)

修得状況等 (※裏面に詳細に記載してください。)

指導教員 []

会計担当者確認 []

修得状況等

(入学時点から休学期間も含めて記載すること)

●修得状況等

履修年度	前 期	後 期
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		
平成 年度		

学位論文等審査及び最終試験並びに修了判定実施要項

(趣旨)

第1条 この要項は、信州大学大学院学則（平成16年4月7日信州大学学則第2号。以下「大学院学則」という。）第43条の規定に基づき、信州大学大学院総合理工学研究科（以下「研究科」という。）の学位論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「学位論文等」という。）の審査及び最終試験並びに修了判定の実施に関し必要な事項を定める。

(学位論文等の提出)

第2条 学位論文等の提出は、次の各号のとおり行う。

- 一 申請者は「修士学位論文等審査申請書」（様式1）に学位論文等、「修士学位論文等要旨」（様式2）を添えて指導教員を経て研究科長に提出する。
- 二 提出期限は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める日とする。

(審査委員会)

第3条 学長からの付託を受けて、研究科委員会は申請者1名について3名以上の研究科の研究指導教員（主査1名、副査2名以上）をもって組織する審査委員会を設け、学位論文等の審査及び最終試験を行う。ただし、審査委員会の設置は各専攻に委託する。

2 前項の学位論文の審査に当たっては、研究科委員会が必要と認めた場合、他の研究科、他の大学院又は研究所等の教員等を副査として加えることができる。

3 審査委員会は、学位論文等の審査結果並びに最終試験結果を「修士学位論文等審査及び最終試験結果報告書」（様式3）により、研究科長に報告する。

(学位論文等の審査)

第4条 学位論文等審査は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める期間に行うと共に、発表会を開く。

(最終試験)

第5条 最終試験は学位論文等に関係ある科目について口頭又は筆答により行う。

2 最終試験は、3月又は9月修了に応じて各専攻の定める期日までに行う。

(博士課程学位プログラム)

第6条 第2条～第5条の規定に係わらず、大学院学則第27条の3第1項第1号に定めるファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラムの履修生については別に定める。

(修了判定)

第6条 研究科委員会は、審査委員会の報告に基づき、課程修了の可否について議決する。

(学位論文等の保管)

第8条 学位論文等は、審査終了後、学部の図書館及び指導教員がそれぞれ保管する。この場合、指導教員が学位論文を保管する期間は、当該指導教員が信州大学に在職する期間とする。なお、学位論文は、印刷物又は電子媒体で保管する。

(雑則)

第9条 この要項により難い事案が発生した場合は、研究科委員会において審議の上、決定する。

附 則

この要項は、平成28年4月1日から施行する。

様式 1

平成 年 月 日
Request made on YYYY/MM/DD

信州大学長 殿
To: The President, Shinshu University

平成 年度入学
Year of Admission

信州大学大学院総理工学研究科
Graduate School of Science and Technology, Shinshu University

専攻 分野
Department Division

学籍番号
Student ID

申請者 (申請) 印
Student Name Seal

英文氏名
Student Name

生年月日 昭和・平成・西暦 年 月 日生
Date of Birth (YYYY/MM/DD) 西暦用ののみ西暦で記入してください。

修士学位論文等審査申請書
Request for Master's Dissertation or Selected Topical Research Evaluation

このたび、信州大学学位規程第4条の規定により、修士 () の学位を受けたいので、下記の学位論文等を提出いたしますから御審査くださるよう申請いたします。

In compliance with the rules and regulations of Shinshu University, Article 4, I hereby request a Master's Dissertation or Selected Topical Research Evaluation to receive a Master's Degree in . The dissertation title is stated below.

記

学位論文等題名 Title	
------------------	--

※申請者名・英文氏名は学位記に記載される漢字・綴りを記入してください。(※英文氏名 Shinshu Taroh)
※学位論文等題名が外国語の場合は、その和訳を () 書きで併記すること。

様式 2

修士学位論文等要旨
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者 / The person who submits a thesis	専攻名 / Department	専攻
	分野名 / Division	
	分野 学籍番号 / Student ID	
	氏名 / Name	
論文等題目 / Title		
論文等要旨 (1,000 字以内) / Abstract (Within 1,000 characters in Japanese or 300 words in English)		

信州大学大学院総理工学研究科

様式 3

平成 年 月 日

信州大学大学院総理工学研究科
修士学位論文等審査及び最終試験結果報告書

学位論文提出者			
学籍番号		専攻	専攻
入学年度	平成 年度	分野	分野
申請学位	修士 ()		
学位論文等題目			
学位論文等審査 及び最終試験結果 審査の要旨	学位論文等		最終試験
成績	学位論文等審査		最終試験
	平成 年 月 日 ~ 平成 年 月 日	平成 年 月 日	

注：成績は、合格、不合格の用語で記入すること。

審査委員		
主査	印	副査
副査		副査

信州大学大学院総合理工学研究科修士論文評価基準

信州大学大学院総合理工学研究科は、以下の基準に拠り、論文審査および口頭試問等を経て、審査委員会が最終的な評価を決定する。

1. 【独創性・意義】

研究目的、研究手法あるいは研究成果は、十分な独創性または意義を有するか。また、学術研究が従うべき規範を守り、研究者としての研究倫理を身に付けているか。

2. 【実験・調査】

研究を遂行するために実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行なわれているか。また、その分析は正確で、結果や解釈が妥当であるか。

3. 【関連資料・参考文献】

研究を遂行するために利用した関連資料・参考文献について、正確な読解、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。

4. 【論証方法・論旨とデータ（資料）の提示方法】

問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。

5. 【表現の的確性】

日本語もしくは使用外国語について、語句や学術用語の使用は的確で、文章表現は論理的であるか。

6. 【論文の体裁】

本文、章立て、注記、関連資料・参考文献からの引用、図表等は、論文構成において、体裁が整っているか。

7. 【総合的評価】

当該分野の研究において、総合的に評価して修士論文に値するか。

(ただし書き)

- 1) 項目2と3の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。
- 2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。
- 3) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。
- 4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

附 則

この基準は平成28年4月1日より施行する。